

Ⅲ 文化財センターの事業

1 発掘調査の概要

(1) 平成17年度～24年度の本発掘調査について

平成17年度の広域合併で新潟市域が拡大したことに伴い、本発掘調査の件数や面積がそれ以前に比べ飛躍的に増加した（表1・表2）。

本発掘調査件数は4件から10件の間を推移している。平成17年度から19年度にかけては民間事業に伴う本発掘調査が一定量行われていたが、これは宅地開発や大規模店舗建設を原因とするものである。平成18年度の大手スーパー出店に伴う駒首湯遺跡の本発掘調査では、単年度で11,493.6㎡の調査を行っている。その後は、郊外型大規模店舗出店が抑制されたこともあり、民間事業が原因の本発掘調査は減少傾向にある。平成23年度に宅地開発に伴う結七島遺跡発掘調査を行っているが、本発掘調査面積は構内道路部分330㎡である。

公共事業が原因の本発掘調査は道路新設・改良工事のほか、県営圃場整備事業に伴うものが毎年相当規模を占めている。秋葉区の満日地区圃場整備事業及び両新地区圃場整備事業区域では、沖積地に立地する遺跡が浅い位置で検出されている。遺跡深度と工事計画高について細かな事前協議を行っているが、遺物包含層までの十分な保護層が確保できず、本発掘調査必要面積が広がっている。

なお、工事の計画に併せて本発掘調査を実施することが求められるため、現地作業が優先される。その結果、記録保存の成果である発掘調査報告書を作成・刊行するための時間・人員の確保が難しくなり、事業によっては大幅な遅滞をきたしている。土木工事等によって失われた遺跡の記録保存として報告書を早期に刊行し、調査の成果を国民に還元する必要があることから、今後は整理作業・報告書刊行段階までを踏まえた調査計画が必要であろう。民間調査組織を適切に活用する等、効率的な発掘調査・整理作業を進めていく必要があると考えられる。

(2) 平成23年度の本発掘調査

表3に示した通り、5遺跡で本発掘調査を行った。原因者別には民間事業（宅地造成）関連1件、公共事業関連が4件であり、公共事業関連のうち、県営圃場整備関連2地区3件、国道建設関連1件となっている。全て秋葉区内の調査である。総面積は6,511.2㎡と前年度に比べ大幅な減となっているが、これは圃場整備関連の調査が事



発掘調査現地説明会（大沢谷内遺跡 平成24年度）

業者の都合で一時的に縮減されたためである。そのほかでは、平成17年度以来継続している国道403号線建設関連の大沢谷内遺跡発掘調査を引き続き実施した。いずれの調査も、事業費としては現地作業と並行して過年度に実施の本発掘調査の整理作業を行った。また、整理作業単独の事業も3遺跡4件あり、発掘調査報告書を3冊刊行した。

(3) 平成24年度の本発掘調査

表4に示した通り、8遺跡で本発掘調査を行った。原因者別には民間事業関連がなくなり、公共事業関連として県営圃場整備関連3地区5件、国道建設関連1件、市道建設関連1件、公共運動施設建設関連1件となっている。区別では秋葉区が最多の5件、西蒲区2件、江南区1件である。総発掘調査面積は12,357.8㎡と前年度に比べ2倍弱の増となっているが、おおむね例年通りの規模といえる。国道403号線建設工事に伴う大沢谷内遺跡は本線部分の発掘調査がほぼ終了し、翌25年度に付帯の取り付け道路部分の調査が終了すると現地調査はいったん終了となる予定である。平成23年度と同じく、事業費は現地作業と整理作業を含めた金額となっている。整理作業単独の事業も2遺跡2件あり、発掘調査報告書を1冊刊行した。（廣野耕造）

(4) 公開活動一発掘調査現地説明会一

新潟市では、発掘調査や文化財保護について市民の理解を深めるため、発掘調査現場を一般市民への公開を行う発掘調査現地説明会を開催している。住宅街など現地説明会の開催が難しい場合を除き、原則説明会を開催するようにしている。なお、平成23年度圃場整備事業に伴う発掘調査の現地説明会は駐車場を確保することが難しいことから行わなかった。（今井さやか）

表1 本発掘調査件数の推移(平成17年度～24年度)

事業	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
民間	2	5	3	1	0	0	1	0
公共	5	4	7	9	5	4	4	8
圃場整備	2	2	2	2	2	1	3	5
合計	7	9	10	10	5	4	4	8

表2 本発掘調査面積の推移(平成17年度～24年度)

事業	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
民間	2,554.3	14,191.9	1,37.3	280	0	0	3,300	0
公共	9,800.7	9,310.6	21,638.6	21,416.7	21,524.5	11,887.4	6,181.2	12,358.4
圃場整備	7,174.7	4,201.9	13,644.7	6,233.5	2,745.5	4,464.2	851.2	6,052.9
合計	12,355.0	23,502.5	21,775.8	21,444.7	21,524.5	11,887.4	6,511.2	12,358.4

表5 平成23年度・24年度現地説明会参加者数

年月日	遺跡名	参加者数(人)
2011/5/28(土)	結七島遺跡	50
2011/10/8(土)	大沢谷内遺跡	94
2011/10/16(日)	古津八幡山古墳	350

年月日	遺跡名	参加者数(人)
2012/9/1(土)	大沢谷内遺跡	140
2012/10/6(土)	中谷内遺跡	60
2012/10/8(月・祝)	古津八幡山古墳	213
2012/11/17(土)	細池寺道上遺跡	60
2012/11/24(土)	日本遺跡	100

表3 平成23年度本発掘調査・整理作業一覧

調査番号	遺跡名	発掘調査面積(m ²)	所在地	事業名	調査担当	調査員	発掘調査期間	遺跡の時代	主な遺構	主な出土遺物	事業費(円)
2011001	結七島遺跡	3300	秋葉区福島	宅地造成	龍田慶子	速藤恭雄 澤野慶子	2011/4/21～ 2012/6/9	古墳・奈良・平安	溝・土坑・ピット・河跡 井戸・性格不明遺構	土師器・須恵器ほか	10810000
2011002	中谷内遺跡	420.5	秋葉区大蔵 字無頭	県営圃場整備	速藤恭雄	澤野慶子	2011/9/30	古墳・平安・中世	土坑・溝・小土坑 性格不明遺構	土師器・須恵器ほか	22,500,000
2011003	内野遺跡	206.7	秋葉区七日町 字新久免	県営圃場整備	速藤恭雄	-	2011/10/24～ 2011/12/16	平安・中世	井戸・土坑・溝 性格不明遺構・小土坑	土師器・須恵器 珠洲焼・中世土師器ほか	16,500,000
2011005	細池寺道上遺跡	224.0	秋葉区飯柳 字細池	県営圃場整備	前山精明	澤野慶子	2011/7/25～ 2011/8/25	平安・中世	ピット	土師器・須恵器・珠洲焼	130,000,000
2011006	大沢谷内遺跡	5,330.0	秋葉区鎌倉新田	国道新設	潮田憲幸	八藤後智人 牧野耕作 (株)ノガミ 秋山泰利	2011/4/11～ 2011/12/14	縄文・弥生・古墳 平安・中世	井戸・土坑・溝 ピット・性格不明遺構	縄文土器・土師器 須恵器・中世土師器 珠洲焼・石器・石製品 木製品ほか	4,529,490
2010001	林付遺跡		西蒲区今井	沼東南小学校体 育館改築事業	相田泰臣	-					4,406,325
2010004	大沢谷内遺跡		秋葉区鎌倉新田	市道拡幅	前山精明	-					4,570,188
2008009	四石遺跡		西区東山 字四石	廃棄物処理施設 建設	渡邊ますみ	-					52,000,000
2005004 2006002 2007006 2008005 2009001	大沢谷内遺跡		秋葉区鎌倉新田	国道新設	立木宏明	(株)シン技術コンサル 細野高伯・伊比博和					

表4 平成24年度発掘調査・整理作業一覧

調査番号	遺跡名	発掘調査面積(m ²)	所在地	事業名	調査担当	調査員	発掘調査期間	遺跡の時代	主な遺構	主な出土遺物	事業費(円)
2012001	大沢谷内遺跡	2,612.0	秋葉区鎌倉新田	国道新設	潮田憲幸	株ノガミ 秋山泰利	2012/4/11～ 2012/10/18	平安・中世	掘立柱建物・井戸・柱穴 溝状遺構・水田状遺構 性格不明遺構等	須恵器・土師器 石製品・木製品 金属製品等	65,000,000
2012002	峰岡城山遺跡	2,183.5	西蒲区峰岡	屋内運動場建設	立木宏明	(株)シン技術コンサル 伊比博和	2012/5/21～ 2012/8/20	縄文・平安	土坑・性格不明遺構 ピット	縄文土器・土師器 須恵器・珠洲焼 石器・鉄滓・礫等	47,000,000
2012003	内野遺跡	287.0	秋葉区七日町	県営圃場整備	速藤恭雄	-	2012/7/10～ 2012/8/17	平安・中世	井戸・土坑・溝 性格不明遺構 ピット・田河川	須恵器・土師器・石製品	40,000,000
2012004	中谷内遺跡	487.5	秋葉区七日町	県営圃場整備	速藤恭雄	(株)吉田建設 佐藤正史	2012/7/9～ 2012/11/6	平安	土坑・溝・ピット 掘立柱建物跡・河跡	土師器・須恵器・珠洲焼	80,000,000
2005002 ほか	(沖ノ羽遺跡)ほか	214.7	秋葉区東金沢	県営圃場整備	前山精明	澤野慶子	2012/7/17～ 2012/8/2	平安	溝・性格不明遺構	土師器・砥石	45,500,000
2012006	細池寺道上遺跡	4,715.7	秋葉区東金沢	県営圃場整備	前山精明	牧野耕作 牧野耕作 (株)吉田建設 細井佳浩	2012/7/23～ 2012/1/10	平安・中世	水田・井戸 テラス状遺構・木道? 土坑・ピット・畝間痕	土師器・須恵器 木製品(鏝・斎申など) 中世陶器(珠洲焼等)	45,500,000
2102007	日本遺跡	1,510.0	江南区茅野山	市道新設	立木宏明	(株)シン技術コンサル 細野高伯	2012/8/21～ 2012/12/20	平安	ピット・土坑・溝 性格不明遺構・畑跡	土師器・須恵器 珠洲焼・石製品 鉄製品・鍛冶関連遺物	7,300,000
2012008	下新田遺跡	348.0	西蒲区道上	県営圃場整備	潮田憲幸	-	2012/11/5～ 2012/12/14	奈良・平安	溝状遺構・土坑 性格不明遺構・畝状遺構	須恵器・土師器	362,250
2010001	林付遺跡		西蒲区今井	沼東南小学校体 育館改築事業	相田泰臣	-					

2 本発掘調査・工事立会

平成23年度・24年度の本発掘調査・工事立会の概要を以下に記す。年度毎に調査番号順に掲載している。調査

位置・番号は図1・表6に示した。各項の末尾括弧内は調査番号である。各概要の図「調査地点の位置」は国土基本図（10,000分の1）を使用しており、地図の上位が北である。（廣野耕造・遠藤恭雄）

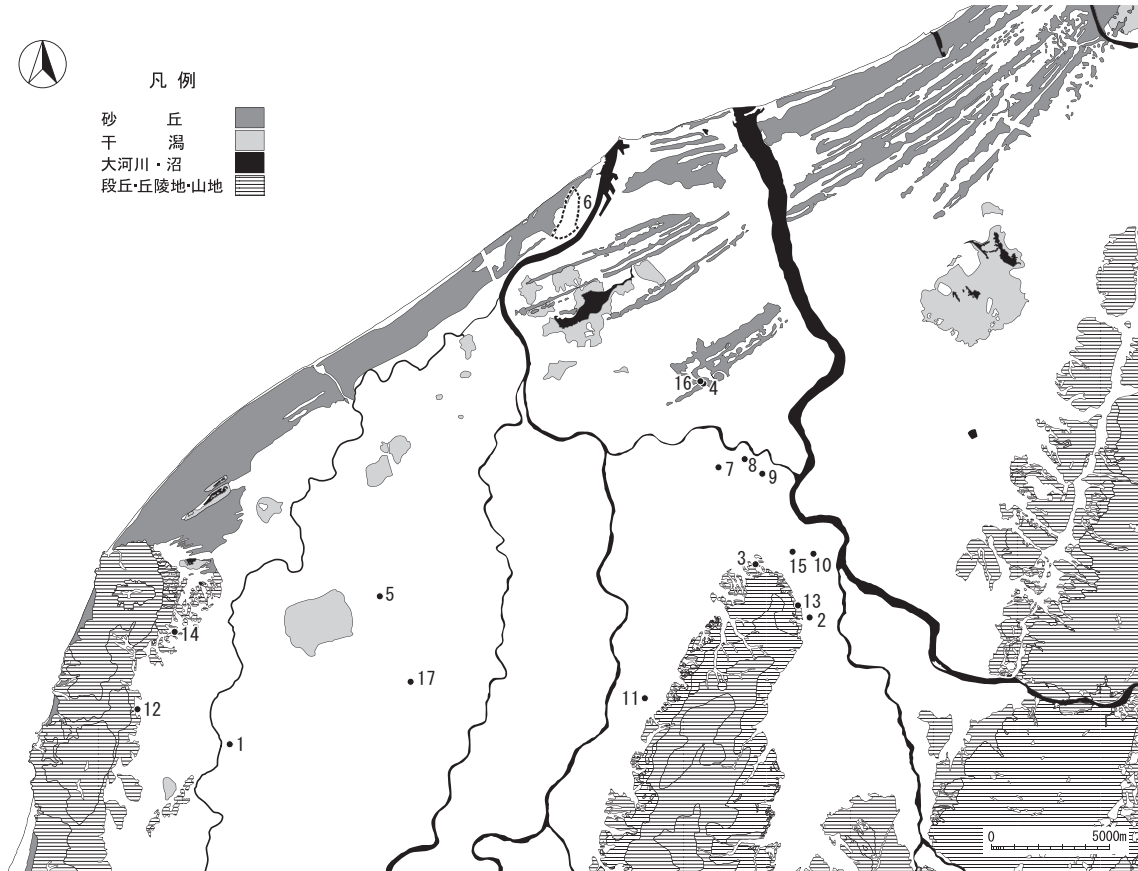


図1 平成23年度・24年度 発掘調査位置図

表6 平成23年度・24年度 発掘調査索引

平成23年度・24年度の事前審査に係る試掘確認調査

遺跡番号	遺跡名	調査年次	調査番号	位置番号	頁
467	和納館跡隣接地	—	2011137	1	7
722	諏訪畑遺跡	4	2011149	2	8
182	秋葉遺跡	9 10	2012110 2012115	3	11
391	日水南遺跡	5	2012159	4	17
755	三角耕地遺跡	1	2012234	5	19
575	近世新潟町跡	15・16・17	2012142 2012201 2012202	6	20

(図1) (Ⅱ2)

平成23年度の本発掘調査・工事立会

遺跡番号	遺跡名	調査年次	調査番号	位置番号	頁
209	結七島遺跡	24	2011001	7	28
200	中谷内遺跡	15	2011002	8	29
201	内野遺跡	8	2011003	9	30
151	細池寺道上遺跡	32	2011005	10	31
342	大沢谷内遺跡	19	2011006	11	32
432	岩室神明社遺跡隣接地	工事立会	2010157	12	33
131	居平遺跡	工事立会	2011146	13	34

(図1) (Ⅲ3)

平成24年度の本発掘調査・工事立会

遺跡番号	遺跡名	調査年次	調査番号	位置番号	頁
342	大沢谷内遺跡	20	2012001	11	35
749	峰岡城山遺跡	2	2012002	14	36
201	内野遺跡	9	2012003	9	37
200	中谷内遺跡	16	2012004	8	38
150	西江浦遺跡	3	2012005	15	39
151	細池寺道上遺跡	38	2012006	10	39
398	日水遺跡	6	2012007	16	40
573	下新田遺跡	6	2012008	17	42
575	近世新潟町跡	工事立会	2012119 2012191	6	43

(図1) (Ⅲ4)



発掘調査風景（峰岡城山遺跡 平成24年度）

3 平成23年度の本発掘調査・工事立会

(1) 結七島遺跡 第24次調査 (2011001)

所在地 新潟市秋葉区福島

調査の原因 宅地造成事業 (民間事業)

調査期間 平成23年4月21日～6月9日

調査面積 330.0㎡

調査担当 龍田優子

調査員 遠藤恭雄・澤野慶子

処置 記録保存

調査に至る経緯 遺跡範囲内で民間の宅地造成事業が計画され、事業予定地2,225㎡を対象に確認調査が実施された。調査の結果、平安時代の遺構・遺物が確認され、本発掘調査が必要であると報告された。その後、事業者から発掘調査が依頼され (平成23年3月29日付)、宅地造成予定地内で新たに道路が造成される範囲について本発掘調査を実施した。

位置と環境 結七島遺跡は、能代川左岸、小阿賀野川との合流地点から南西約1kmの自然堤防上の微高地に立地する。西側・南側に向かって低くなる地形で、標高は約4mを測る。平成11年度の試掘調査によって発見された古墳時代と平安時代を主体とした遺跡で、これまでにさまざまな調査原因に伴う発掘調査が行われている。

本発掘調査地点は南北に大きく広がる遺跡の東端部に位置する。現況はテニスコートと宅地で、埋め立てや地盤改良などにより全体的に攪乱を受けていた。

検出遺構 現地表面から約1.3mの深さで井戸1基・土坑6基・溝状遺構23条・川跡1条・ピット24基・性格不明遺構2基が検出された。検出面などから近世以降と思われる井戸以外は、出土遺物などから概ね古代に属すると考えられる。最も多く検出された溝状遺構を中心に行った自然科学分析の結果、イネ科のプラントオーバー、アブラナ科の花粉が検出され、調査地点もしくはその近辺で畑や水田の耕作が行われていた可能性が指摘できる。

なお、古代の遺構確認面が2面あるという確認調査結果により下層の調査を行ったが、遺跡は検出されず、古代の生活面は1面であると判断した。

出土遺物 出土遺物はコンテナケース24箱である。古代の土器が大半を占めるが、同時期の所産と思われる土製品・石製品・金属製品や、古墳時代まで遡ると推測される土器もわずかに存在する。古代の土器は、9世紀前半～9世紀後半の間に収まる年代のものと、8世紀前半のもの二時期に分かれる。主体を占める9世紀前半の遺物には、佐渡小泊・新津・阿賀北・高田平野西部丘陵



調査位置図 (1/10,000)



調査区全景



溝 (SD23・25) 完掘状況 (南から)

の滝寺など新潟県内各地の窯で生産された須恵器が認められる。特に、底部切り離しに糸切り技法を行い、有台杯は腰部に明瞭な稜を持つ点が特徴とされる滝寺窯産の須恵器は、これまでの結七島遺跡の調査では報告されていない。今回の調査でSD23出土の無台杯と包含層出土の有台杯の2点が初めて確認された。

まとめ 建物跡などの明確な生活痕跡は検出されなかった。しかし、これまでの調査成果や自然科学分析結果、また遺跡の立地などから、本調査地点は集落の縁辺部と考える。なお、報告書は、『結七島遺跡VI』として刊行されている。 (龍田優子)

(2) 中谷内遺跡 第15次調査 (2011002)

所在地 新潟市秋葉区大蔵80ほか
調査の原因 満日地区県営圃場整備事業（公共事業）
調査期間 平成23年7月14日～9月30日
調査面積 420.5㎡
調査担当 遠藤恭雄
調査員 澤野慶子
処置 記録保存

調査に至る経緯 満日地区県営圃場整備事業に伴い、平成23年5月10日付で新潟県新潟地域振興局より本発掘調査が依頼された。平成21年度（第12次調査）に続く本発掘調査である。調査対象地は、用排水路新設に伴う幅2.2m、長さ約135mに9か所の取水・排水ユニット取付け部を含む範囲である。遺跡南端部分にあたり、標高は3.65～3.8mを測る。

位置と環境 阿賀野川と能代川・小阿賀野川に囲まれた沖積地に立地する。平成8年に農道整備事業に伴う試掘調査で発見された平安時代を中心とした遺跡である。平成13年から圃場整備事業に伴う範囲確認調査が行われ、東西約700m・南北約850mの規模を有する。

検出遺構 遺構確認面の標高は調査区中央部で2.9mと最も高く、北東側、南西側に向かって緩やかに低くなる。微高地部分では、溝や土坑・畝状遺構などとともに柱根の残る柱穴が検出されており、居住域として利用されていたと推測される。調査区南西側の落ち込み部分では、北西から南東方向にのびる畔上の高まりが確認された。遺構の形状と土壌分析の結果から、水田跡と推測される。また、微高地部で検出された畝状遺構でもイネ科植物の花粉が検出されており、陸稲の栽培が想定される。遺構はいずれも出土土器などから平安時代に属すると考えられる。

出土遺物 土器類を中心にコンテナケース70箱を超える遺物が出土した。すべて平安時代（9世紀代）の須恵器・土師器である。特に溝が切り合う部分で須恵器の杯がまとまって出土している。本調査で出土した須恵器には、佐渡小泊産のものと、新津丘陵周辺や阿賀野川以北産と推定されるものがあるが、写真中央の溝（SD4）では新津丘陵・阿賀野川以北産のものが多く含まれ、これを切る2条の並行する溝（SD1・SD2）からは主に佐渡小泊産のものが出土している。SD4は9世紀前半頃、SD1・SD2は9世紀後半から末頃に位置付けられ、時期の異なる遺構が重複している。

まとめ 調査地の制約から遺跡の全体像は不明な点が多いが、本調査地から南東方向に自然堤防がのび、微高地上に平安時代の集落が形成されていたことが把握で



調査位置図（1/10,000）



調査区全景（南西から）



溝（SD1・2・4）遺物出土状況

きた。検出遺構と土壌の分析から微高地部に連続する低地は水田としての利用が想定される。居住域から生産域に至る区域が良好な状態で残されており、貴重な成果である。中谷内遺跡第12・15・16次調査と内野遺跡第8・9次を合わせた調査報告書を平成26年度に刊行する予定である。（遠藤恭雄）

(3) 内野遺跡 第8次調査 (2011003)

所在地 新潟市秋葉区七日町1310-2ほか
 調査の原因 満日地区県営圃場整備事業（公共事業）
 調査期間 平成23年10月24日～12月16日
 調査面積 206.7㎡
 調査担当 遠藤恭雄
 処置 記録保存

調査に至る経緯 満日地区県営圃場整備事業に伴う地区外連絡水路工事計画が新潟県新潟地域振興局より新潟市歴史文化課に知らされ、平成21年8月に範囲確認調査が行われた。この結果を受け、平成23年5月10日付で新潟地域振興局からの依頼を受け、遺跡北端部分幅2.7m、長さ約75mの区間を対象として本発掘調査を実施した。現況は農道で、標高は4.6～4.9mを測る。

位置と環境 能代川・小阿賀野川・阿賀野川に囲まれた沖積地に立地する。中谷内遺跡の南東側に隣接し、範囲は東西1.2km、南北900mに及ぶ古代から中世にかけての複合遺跡である。平成11年度・12年度には、市道新設工事に伴って遺跡東端部分の本発掘調査が行われ、室町時代（14世紀後半～15世紀前半）を主体とする集落域が調査され、井戸から鉄製鍋や犬の骨などが出土している。

検出遺構 調査地中央部の長さ約40m・幅1.6mの区間では、遺物包含層（Ⅱ層：黒褐色シルト 層厚10～20cm）が残存し、Ⅲ層（灰黄褐色シルト）上面で遺構が検出された。Ⅱ層からは少量ながら平安時代・中世の土器が出土しており、近世以降の遺物は含まれない。Ⅲ層上面の標高は調査区中央部南東よりの部分で4.3mを測り、北西に向かってほぼ平坦に推移し、中央部で溝・土坑・ピットが集中して検出された。遺構からは時期の明確な遺物は出土していないが、検出された遺構の覆土はⅡ層に類似するものが大多数を占めることから、主体時期は中世と推定され、居住区としての利用が想定される。

出土遺物 出土遺物は平安時代の土師器・須恵器、中世の珠洲焼などコンテナケース2箱である。

報告書は平成26年度に刊行の予定である。（遠藤恭雄）



調査位置図 (1/10,000)



調査区全景



遺構完掘状況 (南東から)

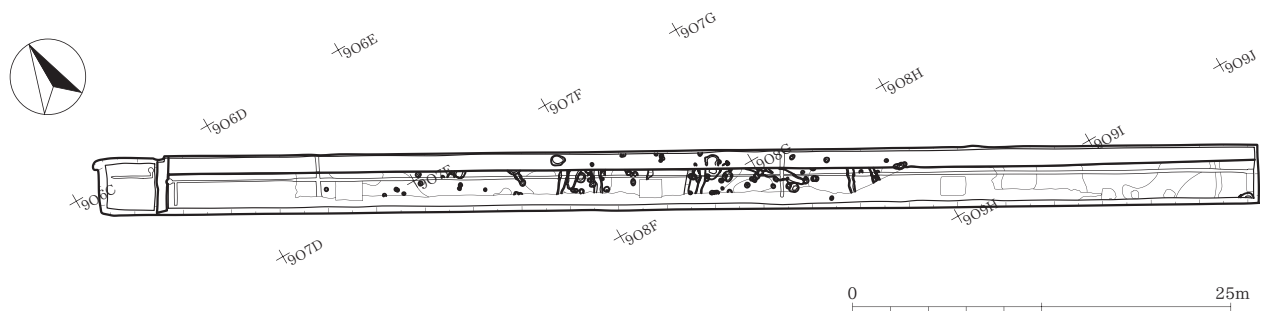


図2 遺構配置図 (1/500)

(4) 細池寺道上遺跡第32次調査 (2011005)

所在地 新潟市秋葉区飯柳1215-1 ほか
調査の原因 両新地区県営圃場整備事業 (公共事業)
調査期間 平成23年7月25日～8月25日
調査面積 224㎡
調査担当 前山精明
調査員 澤野慶子
処置 記録保存

調査に至る経緯 新潟県新潟地域振興局から平成23年4月22日付で本発掘調査の依頼文書が提出され、これを受けて幅2m・全長100mほどの管理設区域とこれに接したユニット設置場所を対象とした調査を実施した。

位置と環境 新津丘陵の北端下に流れる能代川と阿賀野川に挟まれた沖積地に立地する古代・中世の遺跡である。遺跡の広がりには東西1.2km・南北1.7kmにおよぶ。磐越自動車道の建設に伴い新潟県教育委員会が本発掘調査を行った細池遺跡の西に隣接し、標高は8.3mを測る。

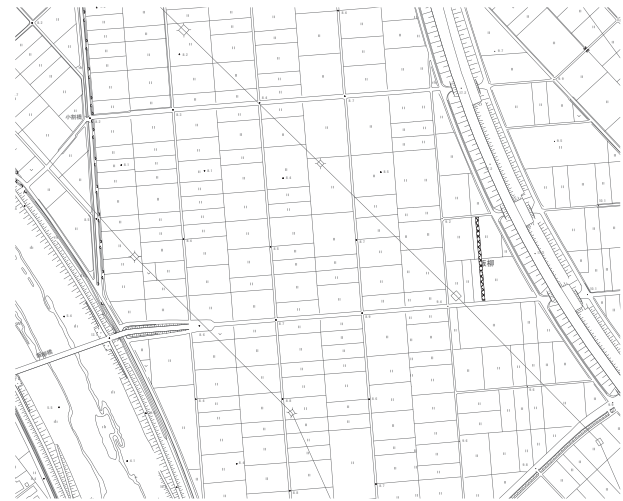
検出遺構と出土遺物 調査区域は南端部とそれ以外で遺跡の残存状況や堆積環境が大きく異なっていた。

南端部の堆積土は、水田耕土 (I層)・褐灰色粘土 (II層)・黒褐色粘土 (III層)・灰色粘土 (IV層) に大別でき、II層・III層に遺物が包含されていた。遺構は楕円形の小ピット2基がIV層上面で確認されたのみである。遺物もきわめて少なく、ピット覆土から土師器1点、包含層から須恵器1点と土師器2点が出土したにとどまる。

それ以外の調査区では南端部の堆積状況とは異なる。

遺跡形成以後の流路や水田が広範囲に分布し、削平などにより包含層も認められないほどの地形改変も顕著であった。壁面での観察によれば、調査区内は①幅20m～30m・深さ1.5mほどの流路の形成と埋積、②大規模な削平と部分的な盛土による下部水田面の造成、③大規模な土盛りによる現水田面、の順に変遷していることが確認された。流路は新・旧二つの河川が重複しており、古段階にあたる流路の埋積土の下部から17世紀代の唐津焼が出土した。上部の盛土層は、大正年間に行われた耕地整理時の客土とみられる。

まとめ 本遺跡の周辺では大正11 (1922) 年に作成された耕地整理以前の土地利用状況を知ることができる『新津町外二ヶ村開田耕地整理組合現景図』があり、「堀田」と呼ばれる「掘込田」が畑作地帯の中に帯状に分布していたことがうかがえる。今回の調査で見いだされた下部水田面は「堀田」にあたるもので、近世の流路と概ね重複的な広がりを示していた。本遺跡ではこれまで実



調査位置図 (1/10,000)



流路の層序と削平状況 (東から)



下部水田の畦畔 (東から)

施してきた試掘・確認調査では「堀田」の分布域で遺構・遺物の存在が確認されたケースはほとんど見られず、本発掘調査の実施区域を判断するうえで、大正年間の土地利用形態との比較が有益な情報を提供してくれるものと考えられる。 (前山精明)

(5) 大沢谷内遺跡 第19次調査 (2011006)

所在地 新潟市秋葉区天ヶ沢字丸山ほか
 調査の原因 一般国道403号道路改良工事 (公共事業)
 調査期間 平成23年4月11日～12月14日
 調査面積 5,330㎡
 調査担当 潮田憲幸
 調査員 八藤後智人・牧野耕作
 秋山泰利 ((株) ノガミ)
 処置 記録保存

調査に至る経緯 新潟市東部地域土木事務所から一般国道403号道路改良工事に伴う本発掘調査が依頼され(平成23年3月17日付)、平成23年4月11日～12月14日にかけて本発掘調査を行った。

大沢谷内遺跡は、昭和63(1988)年に小須戸町教育委員会により第1次調査が行われ、平成16年度から一般国道403号道路改良工事に伴い継続的に調査が行われている。

第19次調査は、6・8・9区の3か所の区について調査を行った。各区の地点は図1の通りである。

位置と環境 大沢谷内遺跡は、新潟市の南東端、新津丘陵と信濃川に挟まれた沖積地上に立地する。縄文時代から室町時代にかけて断続的に営まれ、現在確認される範囲だけでも東西約600m、南北約900mと広大な範囲に及ぶ遺跡である。現地の標高は6区が約2.5m、8区が約3.2m、9区が約3.3mを測る。

6区の検出遺構 第17次調査から継続して本発掘調査が行われ、今年度は主に縄文時代の遺構・遺物が確認された。遺構は、北端部にある埋没河川の右岸(南側)を中心に帯状に分布しており、炉跡62基を始め、土坑・ピット等をあわせて424基が検出された。遺構は、重複して検出されることが多く、短期間に何度も同じ場所を使用したことが窺える。

6区の出土遺物 遺物は、深鉢形土器が多数を占め、縄文時代晩期後半以降と考えられる。出土量は800点程度と、同時代の遺跡の中ではかなり少量である。

6区のみとめ 地形と遺構の分布からいわゆる「河のほとり」に営まれたと考えられる。明確な建物跡が確認できず、遺物も少量のため、一時的に利用された可能性がある。

8・9区の検出遺構 今年度から新たに調査が行われ、主に平安時代と鎌倉時代の遺構・遺物が確認された。

遺構は1,367基が検出され、なかでも平安時代の水田跡が注目される。水田跡は調査区のほぼ全域に広がり、平面形はおおむね方形で、軸を方位にあわせている。自然の勾配を利用した水利網が巧みに構築されている。鎌倉時代の遺構は、井戸跡や溜池状遺構が検出されている。



図1 調査位置図 (1/10,000)



6区全景 (東から)



9区全景 (南西から)

8・9区の出土遺物 6区とあわせてコンテナケース190箱程度である。平安時代の遺物は、土師器・須恵器が大半を占め、9世紀後半～10世紀初頭と考えられる。鎌倉・室町時代では中世土師器と珠洲焼がわずかに出土し、13世紀後半頃と考えられる。

8・9区のみとめ 平安時代には、高度な土木農業技術を駆使した大規模な水田による農地経営が窺える一方で、鎌倉時代は遺構・遺物が散発的な状況のため詳細は不明である。平成26年度に報告書刊行予定である。

(金田拓也)

(6) 岩室神明社遺跡隣接地 (2010157)

所在地 新潟市西蒲区岩室温泉地内

調査の原因 下水道工事 (公共事業)

調査期間 平成23年5月25日～7月28日

調査面積 6㎡

調査の原因 下水道工事

調査担当 廣野耕造

処置 工事立会

調査に至る経緯 調査は下水道管敷設に伴って現道路を掘削する際に、工事範囲の一部が岩室神明社遺跡の北側にかかることから掘削作業の際に工事立会を行ったものである。工事では直径15cmの污水管を総延長449m敷設し、マンホールを23か所設置した。掘削幅は90cm前後で深度は1.3～1.8m程度である。

平成22年度に調査依頼を受けたために調査番号は平成22年のものになっているが、工事立会は平成23年度になってから行った。

位置と環境 調査地は松岳山城跡の東麓に位置し、標高は19m前後である。岩室神明社遺跡は松岳山の東に広がる扇状地に位置し、標高5～10mに立地する。縄文時代後期と古墳時代の遺跡である。

松岳山城跡は、西蒲区岩室字松岳山1477ほかに所在し、標高172.5mの松岳山山頂に実城が築かれている。要所には空堀や土塁が残り、新潟県埋蔵文化財包蔵地カードには鎌倉・室町時代の山城と記載されている。範囲は東西380m、南北80mほどと考えられる。天神山城の支城とされるが、古文書には松岳山城について全く記されていないため不明な点が多い。天神山城は松岳山城の南西約800mに位置し、小国氏の本拠地となった山城である。

検出遺構 遺構は検出されなかった。

出土遺物 遺物は岩室神明社遺跡の範囲内では出土していないが、遺跡範囲より北へ180mほどの岩室温泉676番地付近で珠洲焼が1点出土した。遺物は地表下130～145cmの黒灰色粘土層から出土しており、甕の体部破片と考えられる。外面は転用研磨具として使用されており、部分的に平行タタキメが平滑となっている。時期は吉岡編年Ⅴ期〔吉岡1994〕であろう。

岩室神明社遺跡は縄文時代と古墳時代の遺跡である。これまでに確認調査や工事立会が行われているが、中世の遺物は出土していない。今回の工事立会で珠洲焼が出土した地点は松岳山城跡の東端に近接していることから松岳山城跡などとの関係が推測される。(相澤裕子)

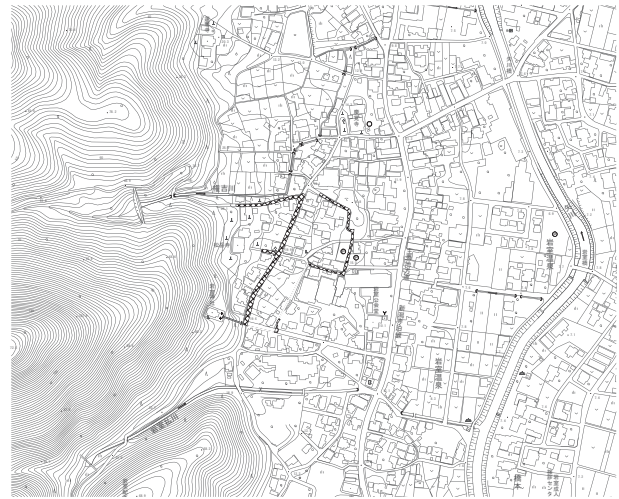


図1 調査位置図 (1/10,000)



図2 土層柱状図

工事立会風景

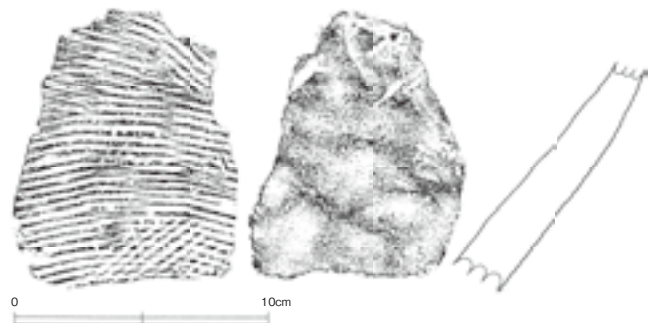


図3 遺物実測図 (1/3)

(7) 居平遺跡 (2011146)

所在地 新潟市秋葉区小口地内
 調査の原因 下水道工事 (公共事業)
 調査期間 平成23年11月17日～平成24年3月
 調査面積 約145.8㎡ (調査対象面積314.5㎡)
 調査担当 廣野耕造
 処置 工事立会

調査に至る経緯 調査は現道路下に下水道管を敷設する掘削作業に伴う工事立会である。工事は、周知の遺跡範囲内で掘削幅81cm・長さ約180m、面積は約145.8㎡になる。遺物は工事立会で全てを採取することができず、残土置場でも採取を行った。

位置と環境 遺跡は新津丘陵の東側斜面に広がる丘陵上に立地し、能代川の左岸に位置する。能代川との比高差は15～20m、標高は21～26mを測る。遺跡範囲は東西130m・南北230m程で、南方250mには谷を挟んで縄文時代中期・後期の平遺跡がある。

検出遺構 遺構は平面プランを把握することはできなかったが、壁面で遺構と思われる落ち込みが確認できた。

出土遺物 コンテナケース1箱分の遺物が出土した。図化したものは16点である。1・3・5～16が深鉢、2が浅鉢、4が鉢である。時期は縄文時代中期後葉～後期前葉が中心である。胎土は粒子の大きな雲母・長石・石英を含有する。1は中期後葉。2は内外面に赤彩がわずかに残る。中期後半～後期。3は中期中葉。4は鉢で口縁端部に沈線と外面に平行沈線を巡らす。中期中頃。5は沈線の間に刺突文を施す。中期後葉～後期前葉。6は中期後葉～末。7は中期～後期。8は外面にススが付着



図1 調査位置図 (1/10,000)

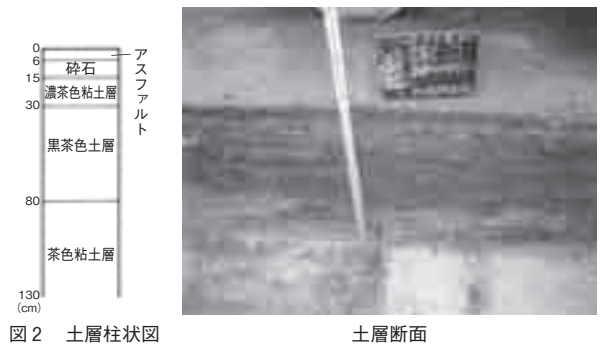


図2 土層柱状図

土層断面

する。中期後葉～後期。9は中期後葉。10は中期後半。11は中期。12は細い縄目をもち、後期の可能性がある。13は中期の可能性はある。14は細い撚糸文を横方向に施文する異質な後期の土器。15は撚糸文を施す。後期初頭～前葉。16は中期末～後期前葉。遺物の時期については寺崎裕助氏からご指導いただいた。(相澤裕子)

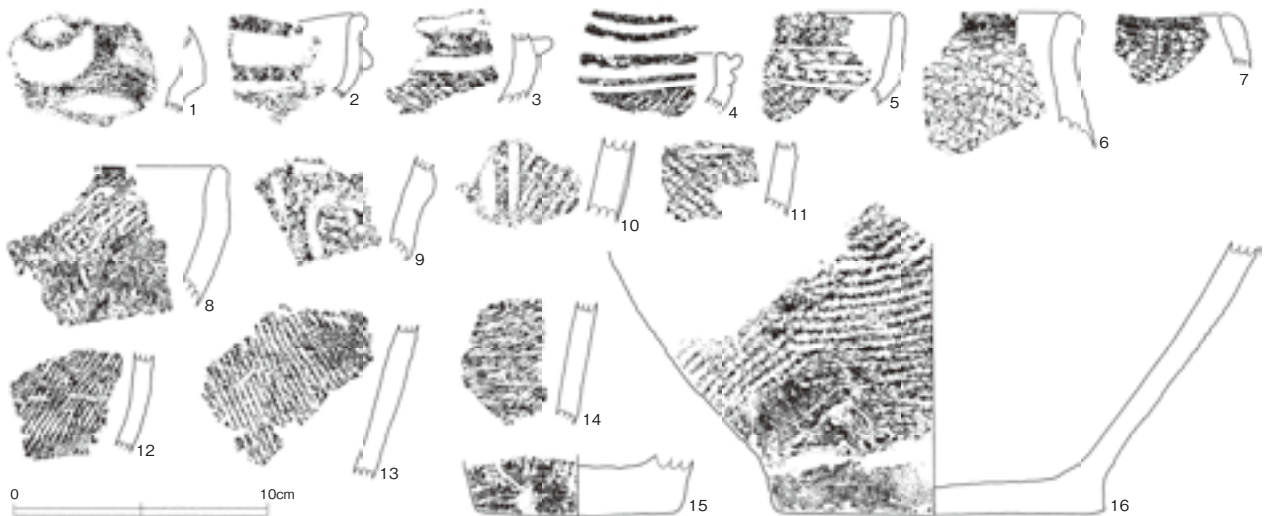


図3 縄文土器実測図 (1/3)

4 平成24年度の本発掘調査・工事立会

(1) 大沢谷内遺跡 第20次調査 (2012001)

所在地 新潟市秋葉区鎌倉

調査の原因 一般国道403号道路改良工事（公共事業）

調査期間 平成23年4月11日～10月18日

調査面積 2,612㎡

調査担当 潮田憲幸

調査員 秋山泰利（(株)ノガミ）

処置 記録保存

調査に至る経緯 新潟市東部地域土木事務所から一般国道403号道路改良工事に伴う本発掘調査が依頼され（平成24年3月12日付）、平成24年4月11日～10月18日にかけて本発掘調査を行った。

第20次調査は、昨年度の第19次調査に引き続き9区について調査を行った。昨年度が9区の南側に対して今年度は北側に当たる。

位置と環境 Ⅲ 3(5)で記した。

検出遺構 遺構は約2,400基検出され、多くは平安時代と考えられる。掘立柱建物跡は、現時点で10棟以上確認され、規模は多様であるが、おおむね東西・南北に沿った軸を持っている。平安時代と鎌倉時代では軸が若干異なる可能性がある。その他にも柱穴と考えられる遺構が多くあるため、さらに多くの建物が存在したと考えられる。井戸跡は、64基と多数検出され、生活用水や農業用水の水源としての利用が考えられる。なかには割り貫き材を合わせた井戸側や、木製品と自然木で組んだ井戸側が確認された。溝状遺構は185条検出され、多くは用・排水用と考えられる。おおむね方位に沿って延びる溝状遺構も存在する。土坑は108基検出され、ほぼ平安時代と考えられる。また、鎌倉時代のものと考えられる堅穴状遺構が2基確認され、井戸跡ほど深さはなく、溜池に用いた可能性が考えられる。さらに、調査区の南部で水田跡が確認され、昨年度の9区南側で検出された平安時代の水田跡の延長であると考えられる。

出土遺物 遺物は昨年度と同様に平安時代の土師器・須恵器などの土器が大半を占め、コンテナケース200箱以上である。時期は平安時代の後半頃と考えられる。また、井戸跡などから斎串や木製容器など多種多様な木製品が比較的多く出土している。鎌倉時代の遺物は、青磁・珠洲焼・中世土師器・陶磁器などが少数確認されており、平安時代と同様に木製品が多量に出土している。

まとめ 昨年度の水田跡が確認された9区南側は標高が3.3m程度であり、さらに南に向かってゆるく傾斜する。一方、今年度の建物跡が確認された9区北側は標高



図1 調査位置図 (1/10,000)

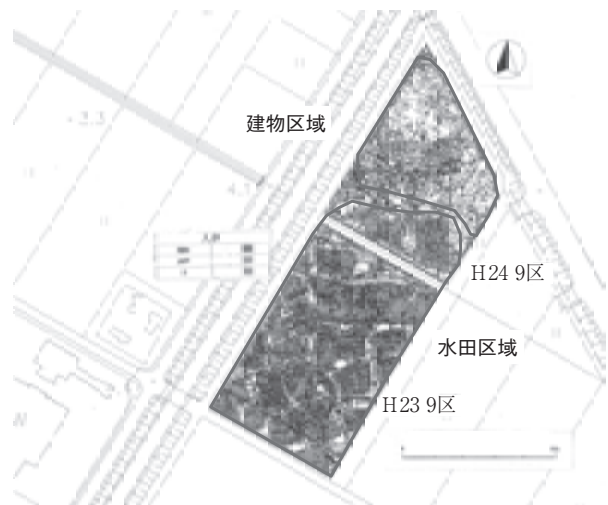


図2 9区遺構平面図



調査区遠景 (北西から)

が約3.5m程度であり、北側の南部で確認された水田跡の北端は建物跡などの区域とは溝で一段低く下げられるなどの明確な分けがある。そのため、標高の高い区域に建物などを配し、標高の低い区域に大規模な水田を造作するという平地のわずかな高低差を巧みに利用した平安・鎌倉時代の人々の営みが判明した。平成26年度に報告書刊行予定である。(金田拓也)

(2) 峰岡城山遺跡 第2次調査 (2012002)

所在地 新潟市西蒲区峰岡字城山
 調査の原因 城山屋内体育施設造成工事 (公共事業)
 調査期間 平成24年5月21日～8月20日
 調査面積 2,183.5㎡
 調査担当 立木宏明
 調査員 伊比博和 ((株) シン技術コンサル)
 処置 記録保存

調査に至る経緯 平成23年度に、城山屋内体育施設造成工事が計画された。近隣には上城跡・下城跡など中世と推定される城跡が所在しており、中世の遺跡の検出が期待された。西蒲区地域課より、平成23年5月9日付で試掘調査の依頼が新潟市教育委員会にあり、平成23年6月2日から7月8日まで試掘調査 (第1次調査) を行った。その結果、縄文時代から室町時代の遺跡であることが明らかとなり、字名を取り「峰岡城山遺跡」と命名した。

続く本発掘調査 (第2次調査) は、同地域課より平成24年3月14日付で本発掘調査の依頼が同教育委員会にあり、丘陵残存部位の2,183.5㎡について平成24年度に行った。

位置と環境 峰岡城山遺跡は、角田・弥彦山塊の東麓の角田山麓から東西に延びる標高7～21mの丘陵上に位置する。縄文時代中期前葉集落の遺物廃棄場と古代・中世の遺物散布地である。調査区南側の縄文時代中期集落推定域は昭和54年以前に行われた土取り工事により削平されている。

検出遺構と出土遺物 大きく上層と下層に分かれる。

下層からは縄文時代中期前葉集落の遺物廃棄場3か所とピット・水場遺構などを検出した。遺物は、縄文時代草創期の尖頭器、縄文時代前・中・後期の土器および石器類が出土した。主体となる時期は土器の編年学的な検討から縄文時代中期前葉が主体である。土器は北陸地方の影響を受けた土器を中心に関東・東北系の土器が出土している。石器は石鏃・磨製石斧・不定形石器・凹石・敲石・台石・玉類などが出土している。出土した黒曜石は分析の結果、長野県方面から搬入された資料であることが確認された。

上層からは炭焼きに関係する遺構と考えられる焼土坑を10基検出した。遺物としては古代 (平安時代) の土師器・黒色土器・須恵器と中世の珠洲焼・越前焼などが確認された。その他に鍛冶関連遺物が出土している。

まとめ 縄文時代中期前葉集落の遺物廃棄場である。調査区周辺に集落が想定される。出土した縄文土器は北陸地方を中心に東北地方北部や中部・関東などの影



図1 調査位置図 (1/10,000)



調査区全景 (北から)



縄文土器

響をうけたものが出土し、当地における人々の交流を窺う上で重要な資料群である。石器は石鏃・磨製石斧・磨石・台石など、一般的な集落に保有される石器組成が確認された。古代・中世においては炭焼きなど生産の場として利用されている。

出土遺物はコンテナケース100箱である。

報告書は『峰岡城山遺跡 第2次調査』として刊行されている。 (立木宏明)

(3) 内野遺跡 第9次調査 (2012003)

所在地 新潟市秋葉区七日町1310-2ほか

調査の原因 満日地区県営圃場整備事業 (公共事業)

調査期間 平成24年7月10日～8月17日

調査面積 286.9㎡

調査担当 遠藤恭雄

調査員 笹澤正史 ((株)吉田建設)

処置 記録保存

調査に至る経緯 平成23年度 (第8次) 調査に引き続き、県営圃場整備事業の地区外連絡水路工事に伴い、新潟県新潟地域振興局より依頼を受けて本発掘調査を実施した (平成24年5月10日付)。今回は平成23年度調査の南東側延長、幅2.3m、長さ約130mの区間を対象とした。現況は農道で、標高は5.0～5.2mを測り、水田面との比高差は0.15mほどである。

位置と環境 内野遺跡の位置と環境については、Ⅲ3(3)で記した。

検出遺構 地表下40～50cmまで農道造成や用排水路設置に伴う掘削、盛土 (Ⅰa層) や旧水田の造成、耕作 (Ⅰb・Ⅰc層) による地形改変の影響を受け、基盤層 (Ⅲ層: 黄褐色シルト層 遺構確認面) まで削平され、遺物包含層 (Ⅱ層: 黒褐色シルト) は一部しか残存しない。

南北方向に流れる2条の旧河道 (河1・河2) を検出した。河1は大正11 (1922) 年作成『新津町外二ヶ村開田耕地整理組合現景図』の同位置に水路の記載がみられ、近世以降の流路と推測される。河2も河1と同様の堆積が観察されることから同時期のものと考えられる。河1と河2の間で畝状遺構・井戸・溝などが検出されている。畝状遺構は古代の所産と推測され、他の遺構はいずれも時期不明である。

出土遺物 河1の北西側を中心にコンテナケースで10箱の須恵器・土師器が出土している。主要な時期は9世紀代と推測されるが、盛土層から近世以降の陶器に混じって出土したものが多い。盛土層には、調査地付近の基盤を形成する黄褐色シルトがブロック状に多く含まれることから、隣接地の掘削土砂と考えられ、付近に同時期の集落域があったと推測される。

まとめ 調査範囲では、基盤層がほぼ平坦に検出され、起伏は少ないが、これまでの確認調査の結果や現状の地形から、南北方向に延びる自然堤防が存在し、今回の調査地は自然堤防上の微高地を利用した古代の集落域縁辺部から生産域にあたるものと考えられる。第8次調査の結果と合わせて、調査地周辺では古代から中世にかけて断続的に集落が営まれたものと推測される。

報告書は平成26年度に刊行予定である。(遠藤恭雄)



図1 調査位置図 (1/10,000)



調査区全景 (北西から)



須恵器・土師器出土状況 (南西から)



河1と土層堆積状況 (北西から)

(4) 中谷内遺跡 第16次調査 (2012004)

所在地 新潟市秋葉区大蔵字無頭
調査の原因 満日地区県営圃場整備事業 (公共事業)
調査期間 平成24年7月9日～11月6日
調査面積 487.5㎡
調査担当 遠藤恭雄
調査員 笹澤正史 ((株) 吉田建設)
処置 記録保存

調査に至る経緯 平成21年度から満日地区県営圃場整備事業に伴って断続的に調査を行っている。今回の調査では、新潟県新潟地域振興局の依頼を受け (平成24年5月10日付)、幅2mの用排水路管理設区域を1～4区に地区割りして調査した。1区は標高4m前後で遺跡範囲南西端にあたる。2～4区は遺跡北側にあたり、標高は3.55～3.7mである。

位置と環境 中谷内遺跡の位置と環境については、Ⅲ3(2)で記した。今回調査の3区隣接地では、これまでに農道整備や排水機場建設などによって複数回の本調査が行われている。

検出遺構と出土遺物 掘立柱建物跡・溝・土坑・畝状遺構が検出された。出土遺物はコンテナケース15箱である。3区では今回の調査で最も多くの遺構・遺物が検出されている。遺構は出土遺物の年代から平安時代 (9世紀代) のものと考えられる。掘立柱建物の柱跡もあり、周辺が居住域として使用されていたことが窺える。2区では、畝状遺構が検出されており、生産域として利用されたものであろう。

まとめ 3区隣接地では、平成9年に農道整備事業に伴う調査が行われており、調査地中央を蛇行して流れる旧河道が検出され、9世紀後半を主体とする土師器・須恵器・京都産緑釉陶器などがまとまって出土している。旧河道周辺部が本遺跡内における平安時代集落の中心のひとつであったと推測される。

また、2・3区では北東側に向かって落ち込みが見られ、遺跡の北端部にあたる4区まで湿地性の堆積が続いていることが判明した。付近は、平安時代の集落廃絶後、近世以降に新田開発が行われるまで、土地利用の痕跡は認められず湿地になっていたようである。こうした旧地形や土地利用の変化の様子が把握できたことも今回の調査成果である。

中谷内遺跡第12・15・16次調査と内野遺跡第8・9次を合わせた調査報告書を平成26年度に刊行する予定である。
(遠藤恭雄)



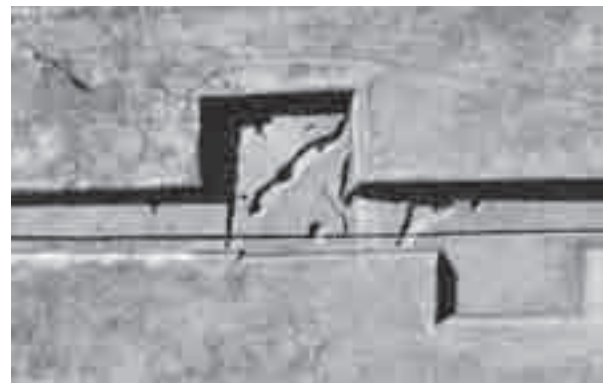
図1 調査位置図 (1/15,000)



1区全景 (北東から)



2区畝状遺構 (西から)



3区完掘状況

(5) 西江浦遺跡 第3次調査 (2012005)

所在地 新潟市秋葉区東金沢字久保1805-3ほか

調査の原因 両新地区県営圃場整備事業（公共事業）

調査期間 平成24年7月17日～8月2日

調査面積 214㎡

調査担当 前山精明

調査員 牧野耕作

処置 記録保存

調査に至る経緯 新潟県新潟地域振興局から平成24年4月19日付で本発掘調査の依頼文書が提出され、これをうけて用・排水路管の埋設が行われる幅2.5m・全長80mの区域を対象とした調査を実施した。

位置と環境 能代川東岸の沖積地に立地する。細池寺道上遺跡の北西部に隣接した古代の遺跡で、遺跡の広がり、東西500m・南北750mほどと推定される。調査地は南部に位置し、現地表面での標高は7.1mである。

検出遺構と出土遺物 堆積土は、水田耕土（Ⅰ層）・青灰色粘土（Ⅱ層）・灰色粘土（Ⅲ層）に大別できる。遺物はⅡ層から磨滅が進んだ土師器片が少量出土したにとどまる。Ⅲ層上面からは溝や水田畦畔などを確認したが、堆積土の特徴からいずれも近・現代に属するものとみなされる。

まとめ 本年の調査地は耕地整理以前の「堀田」の分布域にあたる。水田造成に伴う削平によって遺物包含層や遺構が失われた可能性が高く、調査区域内の遺跡の実態を明らかにすることはできなかった。（前山精明）



図1 調査位置図 (1/10,000)



調査区全景 (東から)

(6) 細池寺道上遺跡 第38次調査 (2012006)

所在地 新潟市秋葉区金沢字中道293-2ほか

調査の原因 両新地区県営圃場整備事業（公共事業）

調査期間 平成24年7月23日～平成25年1月10日

調査面積 4,768㎡

調査担当 前山精明

調査員 牧野耕作

細井佳浩 ((株) 吉田建設)

処置 記録保存

調査に至る経緯 新潟県新潟地域振興局から平成24年4月19日付で本発掘調査の依頼文書が提出された。これをうけて用・排水路管の埋設と4,100㎡あまりの面下げが行われる1区、210㎡あまりの面下げが行われる2区、用・排水管の埋設が行われる3区の調査を実施した。

位置と環境 新津丘陵の北端付近から2～3km東方に位置する古代・中世の遺跡である。本年度の調査地は東西1.2km・南北1.8kmにおよぶ遺跡の北東部にあたる。

磐越自動車道の建設に伴い新潟県教育委員会が発掘調

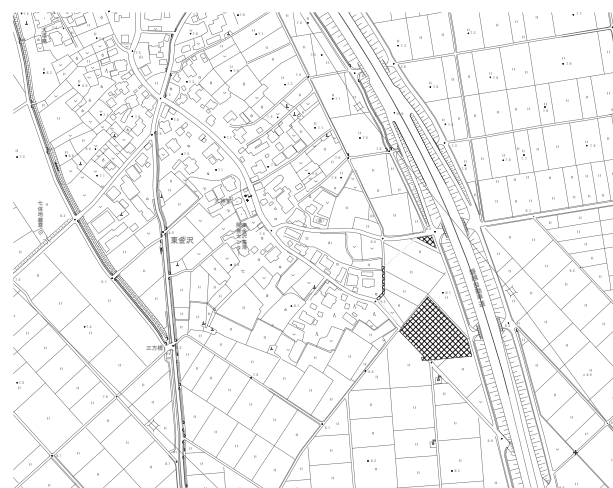


図1 調査位置図 (1/10,000)

査を行った寺道上遺跡B地点の西に隣接し、現地表面での標高は7.6mほどを測る。

検出遺構と出土遺物 1区から古代・中世、2区と3区から中世を中心とする遺構を確認した。遺物はコンテナケースで92箱を数え、大半が1区の河川跡から出土した。

古代の遺構は、1区南東部の河川跡の左岸に広がるテラス状遺構が代表的なものである。大きく蛇行する河川の河岸を削平し、比高50cm・幅7mあまりの平坦地を造成したものである。平坦面には、排水用と見られる1～2条の溝と5～7条にわたる畝状遺構が河川に沿って並走する。土壌分析をつうじ、畝間の上部～下部からイネやキビ族（アワ・ヒエ・キビ）のプラントオパールが多量に検出された。

これに接する河川跡は幅30m・最大深度3mほどと推定できる大規模なもので、川底を覆う砂層や斜面下部の粘土層から9世紀中頃を中心とする土器や木製品が多数出土した。川底付近には大小多数の樹木が堆積していたが、特筆されるのは岸辺にかけて横たわる直径1m・長さ24mにおよぶカツラの巨木である。上半部で劣化や腐朽が著しく、水面に露出していたことがうかがえる。幹の上面には平坦に削ぎ取った箇所が見られる。傍らに杭が打たれるところから、船着き場へ通じる木道として利用されていた可能性がある。このほかの古代の遺構は土坑やピットが散在する程度であった。

1区の平坦地からは、中世の水田跡とその用・排水路と見られる多数の溝が確認された。溝の覆土から13～15世紀代の中世陶器が出土した。水田は二面が東西に並走する。ともに基盤層を30cmほど掘り下げた「掘込田」で、古代の河川に沿って帯状の広がりを見せる。両者は4mほどの間隔をもち、東側では5m、西側では8mほどの最大幅を有する。内部に浅い溝がめぐり、田面全体に耕作痕とみられる窪みが密集する点も大きな特徴である。

また、水田周辺の微高地には、畝跡が調査区全域にわたり分布する。いずれも畝は残っておらず、畝間に形成された粘質部の存在から見出したものである。確認数は1区2,540条・2区280条・3区115条ほどにおよぶ。時期を特定できる遺物はえられていないが、畝の配列が中世の水田跡の形状と対応するところから、同時期の遺構と考えられる。

確認された畝間痕は形状が多様であり、短冊形・撥型・扇形などに区分できる。畝の形状や配列には空間的なまとまりがあり、これをもとに10か所以上のブロックに分けることもできる。隣接する溝の覆土からイネ・ソバ属・アブラナ科の花粉が検出された。今回の調査で確認された畝間痕は、従来認識されてきた畝跡に較べ広範囲に及ぶ点が大規模な特徴である。古代・中世の生業を考えるうえで重要な遺構とみられ、これと同様の特徴を備えた畝跡の探査が今後の課題となる。（前山精明）



1区全景（南から）



河川跡と巨木の出土状況（北東から）



発掘調査風景



河川跡出土の須恵器

(7) 日水遺跡 第6次調査 (2012007)

所在地 新潟市江南区大字茅野山字日水浦2696
調査の原因 市道亀田300号線道路改良工事 (公共事業)
調査期間 平成24年8月21日～12月20日
調査面積 1,510㎡
調査担当 立木宏明
調査員 細野高伯 ((株) シン技術コンサル)
処置 記録保存

調査に至る経緯 平成22年度に日水遺跡隣接地において市道改良工事が計画され、新潟市東部地域土木事務所より新潟市教育委員会に平成22年9月30日付で試掘調査の依頼があった。平成22年9月に試掘調査(第5次調査)を行い、古代の遺構・遺物が検出され、遺跡範囲が西側に広がることを確認された。平成24年度に市道建設が本格化し、平成24年4月18日付で本発掘調査の依頼があり、幅約13m、長さ約125mの範囲で調査を行った。調査地点は平成17年に民間宅地開発に伴い本発掘調査(第3次調査)を実施した西側に位置する。

位置と環境 遺跡は、三方を信濃川・阿賀野川・小阿賀野川に囲まれ、日本海が形成した砂丘(新砂丘Ⅰ)の南斜面及び周辺の小河川が形成した南北方向にのびる自然堤防に所在する平安時代と鎌倉・室町時代を中心とした遺跡である。現況は畑と水田となっている。標高は1.5m前後であり、現地形は北東側から南西側にわずかに傾斜している。

検出遺構と出土遺物 古墳時代中期及び平安時代の遺構が確認された。古墳時代中期の遺構は、性格不明遺構1基が検出され、覆土中からTK208型式併行期前後の時期の須恵器直口壺がほぼ完形の状態で検出された。TK208型式併行期の須恵器資料は新潟県内では類例が少なく、遠隔地から搬入されたと推定される。その他に包含層中から古墳時代中期の土器が出土している。

平安時代の遺構には、溝・土坑・性格不明遺構・畑跡などが確認された。調査区北側では掘立柱建物を含む明確な集落は確認されなかったが、道路の可能性のある遺構も検出された。その他に長軸1.0m、短軸0.5m、深さ0.6mの長楕円状の土坑が6基確認され、陥し穴状の遺構と考えられる。畑跡は調査区南側に5枚検出された。幅4mほどの道路状の間隔を挟んで整然と区画されている。種子等は確認されていないが、自然科学分析の結果、畝部から高密度のイネの植物珪酸体やイネ科の花粉が認められ、稲作主体であったと考察される。また、イネ以外にもソバ属の花粉が確認され、ソバ栽培の可能性も指摘できる。



図1 調査位置図 (1/10,000)



調査区全景 (南東から)



古墳時代の須恵器

まとめ 古墳時代には遺跡周辺に集落が想定される。平安時代は集落域と生産域が分離されて検出された。当時の生活領域を考える上で重要な成果である。出土遺物の中では古墳時代中期の須恵器直口壺を含む土師器甕・高杯などの土器群が出土した。遺物量は少量ながら砂丘列の古墳時代遺跡を考える上で貴重である。

出土遺物はコンテナケース65箱である。

報告書は『日水遺跡Ⅱ 第6次調査』として刊行されている。(立木宏明)

(8) 下新田遺跡 第6次調査 (2012008)

所在地 新潟市西蒲区道上
 調査の原因 道上地区県営圃場整備事業 (公共事業)
 調査期間 平成24年11月5日～12月14日
 調査面積 348㎡
 調査担当 潮田憲幸
 処置 記録保存

調査に至る経緯 遺跡は、県営圃場整備事業に伴う分布調査によって平成16年に新しく発見された。その後、事業予定地内全体を対象に確認調査が行われ、北西から南東方向に細長く広がる奈良・平安時代の遺跡である事が確認された。今回、圃場整備事業として新規に用水管の敷設が計画され、建設予定地内を対象に確認調査を実施した。その結果、約1.2～1.6mの深さから奈良時代を中心とした遺物が大量に出土したため、本発掘調査が必要と判断された。その後、新潟県地域振興局より発掘調査依頼書が提出され (平成24年3月12日付)、用水管が敷設される範囲の本発掘調査を実施した。調査地は、遺跡の東端部に位置する。

位置と環境 下新田遺跡は、中ノ口川左岸の自然堤防上に立地する。標高は1.8～2.0mを測る。

検出遺構 調査区は、洪水堆積土によって遺跡全体が厚く覆われて、遺存状態は良好である。主に奈良時代の土器が出土する下層、奈良・平安時代の土器が出土する中層、畑跡が確認できる上層に分かれる。

遺構確認面は3面あり、中・下層で土坑1基・溝状遺構12条・川跡1条・性格不明遺構3基などが検出された。出土土器などから概ね奈良・平安時代の所産と考えられる。しかし、遺構の検出面が明瞭でなく、覆土出土の遺物に時期の異なるものが複数含まれているなど各遺構の詳細な時期は明確でない。また、遺物は出土しないものの上層壁面で20条を超える畑の畝状の高まりが明瞭に確認された。

出土遺物 出土遺物はコンテナケース8箱である。遺物の多くは下層からの出土であり、8世紀前半の奈良時代を主体に9世紀代の土器も出土している。また、カマドの部材と思われる土製品や土製支脚なども出土していることから、今回の調査地区を含めて近隣に居住域の可能性が指摘される。他に、完形の手づくね土器も複数出土しており祭祀が行われていた可能性も推測できる。なお、土器の多くは大破片で、残存状況も良好である。

まとめ 遺跡のある旧中之口村周辺は、これまで発掘調査事例が少なく、遺跡の状況がほとんど分からない地域であった。今回の調査により、遺跡の良好な遺存状



図1 調査位置図 (1/10,000)



調査区全景 (南東から)



畑の畝 (北西から)

態が確認できた。また、主体を占める奈良時代の遺物は、市内でもまとまった資料があまりなく、これらの出土遺物や畑跡などの生活痕跡の発見は、この地域や時期の様相を考える上でとても貴重である。

なお、下新田遺跡第6・8・9次調査を合わせた報告書を平成27年度に刊行予定である。 (龍田優子)

(9) 近世新潟町跡工事立会 (2012119)

所在地 新潟市西堀通9番町1544番地他地点
 調査原因 国道7号線万代橋下流事業の付帯水管幹線工事
 工事期間 平成24年6月10日～平成25年3月31日
 (工事中掘含む)
 立会日数 35日間
 工事面積 190㎡ (総延長158m)
 調査担当 諫山えりか
 処置 工事立会

近世新潟町跡における工事立会は2件である。1件は国道7号線万代橋下流事業の付帯工事に伴うもの、もう1件は民間店舗建設工事に伴うものである。ここでは国道7号線万代橋下流事業に付帯する水管幹線布設工事における工事立会の概要を記す。

本工事は新潟市水道局が事業主体であり、道路際に平行した直径50cmのタグタイル铸铁管を布設するものである。平成24年5月、歴史文化課は新潟市長から文化財保護法第94条の通知を受け、工事掘削幅が1.2mということから取扱いを「工事立会」と判断し、意見を付して県教育委員会へ進達した。工事初日の段階で掘削幅は1.5m以上、深度も2m以上となることが確認されたが、

再協議は行わず、全工程において工事立会の対応をした。

ほぼ全工事区間、地表下1m前後までは近・現代の層であり、その下に江戸時代の土層が存在する。粘質シルトやシルト、砂等で構成されており、地下水を受けて崩れやすい。工事では壁崩落防止用に掘削しながら矢板を打ち込むため、立会における土層観察が難しい状況であったが、工事掘削時に深さ1～2mの攪乱がない層で、時々木製の杭・柱や構造物の部材が目視された。細かい時期を特定することはできないが、江戸時代の遺構と考えられる。この中で性格が推測されるものは、東西方向に平行に据えられた板、集中してみられる長さ2m以上の杭等で、前者は地境付近にあることから確認調査(Ⅱ2(6)調査番号2012142)の2Tで検出されたような地境を兼ねた下水溝、後者は軟弱地盤へ対応した捨杭の可能性がある。

遺物の総出土量は、コンテナケース約20箱である。工事の掘削の際に出土したものを収集しているため、正確な出土地点を捉えられないものも多いが、深さ2m前後の層には17世紀後半～18世紀初頭の遺物が安定してみられる。遺物は圧倒的に陶磁器が多く、コンテナケース18箱分になる。漆器碗や下駄・箸等の木製品もみられる



図1 近世新潟町跡工事立会位置図 (1/5,000)



工事作業風景



集中した杭



北壁土層断面

が、金属製品を含む脆弱遺物は工事時の破損が大きく確保が難しい。陶磁器は、これまでの調査と同じように、播鉢・壺甕類・灯火具等に多様な生産地をみるが、それ以外の器種はほとんど肥前産で占められる。高級品・上質品が多く、経済力が高い湊町・商業地としての性格が窺える。年代的には、移転（1655年ほぼ完了）以降のものが多いが、移転の際に運び込まれたと思われる1630～1640年代の初期伊万里が一定量存在する。皿がほとんどで、手塩皿・小皿・中皿がみられる。移転後の17世紀後半は肥前磁器の生産技術が飛躍的な進歩をみせる時期であるが、新潟町ではその粋を集めた高級品も多く出土している。4点出土している染付芙蓉手皿は、内乱で輸出が激減した中国に代わってヨーロッパ向けに生産された高級品であり、口径30cm前後の大皿である。陶器でも三島手や二彩手といった陶器の大皿や大振りの鉢が多く出土しており、特に口径40cmを超える二彩手大皿は目を引く。この時期の大皿は、大名・武家屋敷跡から出土することが多く、饗宴で使用されたと考えられているが、新潟町でも同じように宴が開かれていたのであろう。日常品的な食膳具である椀・小皿も当時陶器より高級とされていた磁器が大半を占めており、さらに上質品が多いということも経済力の高さを示すものである。こ

のような様相は18世紀前半までは確認できるが、18世紀後半以降は出土量が少なく不明なところも多い。近現代の掘削がその時期の層に及んでいるためと思われる。少量ながら出土遺物を見ると、18世紀半ば以降、大衆化した磁器が日本中くまなくみられるようになる中で、くらわんか椀などの安価な陶器は少ないことが指摘される。また、19世紀になると瀬戸・美濃で磁器が生産され、肥前産に代わる勢いで全国各地に浸透していくが、新潟町では幕末まで肥前産磁器が主体であり、ステータス的な生産地へのこだわりか、あるいは流通の問題か、今後の課題である。

工事立会の対象地は新潟町のごく一部であるが、出土した陶磁器は新潟町の繁栄ぶりを示すものであり、史料から読み取れる日本海側有数の湊町であったことを裏付けるものである。今後その遺物が伴う遺構が検出され、町の構造が明らかになることを期待するものである。

これらの新潟町から出土した遺物については、平成24年12月に佐賀県立九州陶磁文化館特別学芸顧問の大橋康二氏をお招きし、多くのご指導をいただいた。文中の所見は大橋氏のご教示によるものが多い。末筆ながら感謝申し上げます。
(渡邊ますみ)



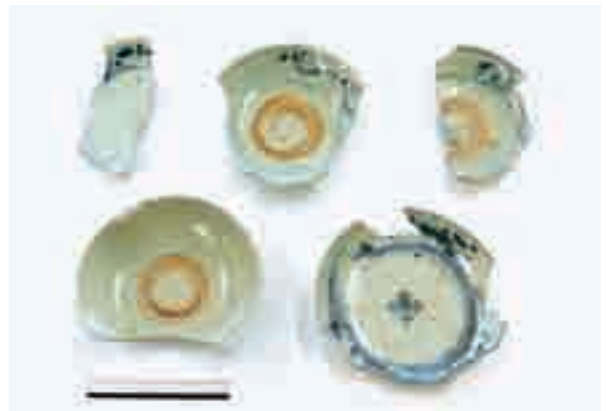
肥前磁器皿（1630～1640年代）



肥前磁器染付芙蓉手大皿



肥前磁器椀（17世紀後半）



肥前磁器皿（17世紀後半）



上質品 肥前磁器皿・合子 内面 (17世紀後半)



上質品 肥前磁器皿・合子 外面 (17世紀後半)



上質品 肥前磁器 碗・皿・鉢 (17世紀後半～18世紀前半)



肥前磁器 青磁鉢・香炉 (17世紀後半～18世紀)



肥前磁器 置物・水滴



肥前陶器二彩手大皿 (口径40cm以上)



肥前陶器三島手中・大皿 (17世紀中葉～18世紀前半)



肥前陶器二彩手大皿 (17世紀後半～18世紀)

5 整理作業の概要

平成23年度・24年度に文化財センターが実施した発掘調査整理業務の一覧を表7に示した。年度毎に調査番号順に掲載している。整理作業のうち、主要なものについて以下に記述する。なお、表掲載のうち古津八幡山古墳整理作業は史跡整備に伴うものである（V）。

(1) 馬場屋敷の塚・興野遺跡・若宮様遺跡・馬場屋敷遺跡の再整理

馬場屋敷の塚・興野遺跡・若宮様遺跡・馬場屋敷遺跡は信濃川左岸の新潟市南区庄瀬に所在する。遺跡は沖積地に形成された自然堤防上に立地し、標高は約3.8～3.9mを測る。昭和57（1982）年に県営圃場整備事業に伴って新潟県教育委員会によって確認調査が行われ、翌58（1983）年に白根市教育委員会により本発掘調査が実施された。調査により、床材や壁材の残る建物、特殊遺構とされる祭祀遺構、44点の木簡、祭祀に用いられたと推測される箸や串、漆器、足駄等の多量の木製品が検出された。かつて白根郷と言われた越後平野の低湿地に立地する典型的な遺跡の一つである。仮に台地上の遺跡で木製品が消滅していれば、貧弱な遺跡とされかねないが、木製品が遺存していたことによって、当時の豊かな生活文化が明らかになった重要な遺跡であると言えよう。発掘調査報告書は4遺跡まとめて『馬場屋敷遺跡等発掘調査報告書』〔川上ほか1984〕として昭和59（1984）年に白根市教育委員会より刊行されている。

遺跡の時期は出土遺物より馬場屋敷の塚は近世、興野遺跡と若宮様遺跡は14世紀～15世紀である。馬場屋敷遺跡上層は15世紀後半～16世紀前半、馬場屋敷遺跡下層は13世紀末～14世紀初頭である。

再整理に至る経緯 平成23年8月9日、国立歴史民俗博物館・共同研究「中世の技術と職人に関する総合的研究」（代表村木二郎）に伴う馬場屋敷遺跡下層出土遺物の検討会が行われた。木製品の生産工房として紹介されたこともあったが〔飯村2001〕、この検討会において木製品の生産が行われていたのか否か明確ではなく、再検討が必要であると指摘された。また、多種多様な木製品が出土していることから、再整理後に見直しが必要ではないかという意見があった。

平成21年度には文化財センター展示用レプリカの作成に際し、木簡の再調査も行われていた。この再調査により「しろわせ」と書かれた種子札の存在など発掘当時は解説不能とされた木簡から新たな知見が得られた〔相澤2010〕。

これらを契機として、発掘調査報告書に掲載されなかった資料を含めて見直しを行い、資料の公表・再評価

する時期であると判断し、再整理を開始するに至った。

再整理の流れ 平成24年5月より再整理を開始した。遺物については注記内容に不明なものが多かったため遺物取り上げ図との照合作業の後、新たな注記を併記した。また、報告書では別個体として掲載されているものが接合し、接合作業が不十分だったため今回改めて接合作業を行った。遺物実測は平成26年1月現在で9割を終えており、再整理報告書掲載点数は1,400点前後となる予定である。土器・陶磁器の一部はデジタルトレースを開始した。

遺構図面は平断面図合わせの後、デジタル図化を行い、調査区を現況の地形図に重ね合わせる作業を進めた。

整理作業の成果 遺物の中心を占めるのは馬場屋敷遺跡下層出土の木製品である。その量は分類・集計の結果、16分類43器種7,200点以上70kg以上に及ぶことが分かった。中でも祭祀具である串・形代が多く、木製品の2割近くを占めている。

下層は遺構の検出状況から2時期が確認できる。建物が存在した時期と特殊遺構として報告されている遺構が存在した時期である。建物が存在した時期には、茅札や種子札の存在から茅場や種籾の管理を行ったと考えられる。この建物が廃絶した後に串を長方形に立てて結界を作り、祭祀を行っている。多量の串や形代がどちらの時期に属するのかは検討の余地がある。今後は継続して遺構・遺物のデジタル図化と図版編集を行い、再整理報告書を作成する予定である。

(2) 試掘確認調査・工事立会・本発掘調査再整理事業

この他に、文化財センター開館前に本発掘調査が終了したが収蔵のための整理作業が未了の遺物や、試掘確認調査・工事立会、新潟県教育委員会から譲与を受けた遺物等を収蔵するための再整理作業を行った。（相澤裕子）

(3) 沖ノ羽遺跡第18・19・22・24次調査の整理作業

整理の流れ 沖ノ羽遺跡第18・19・22・24次調査については第18次および第19次調査1～4・7区を『沖ノ羽遺跡V』として、第19次調査5・6区および第22・24次調査を『沖ノ羽遺跡VI』として刊行する予定で整理作業を進めている。

『沖ノ羽遺跡V』報告書について平成24年度は主に本文執筆・校正を行った。報告書は平成25年度に刊行する。

『沖ノ羽遺跡VI』報告書については遺物の整理を中心に行った。第22・24次調査の出土遺物は調査当時に遺物の注記まで終了していたため、器種の確定と集計作業から行った。7月からは第22次調査出土土器の接合作業を

表7 平成23年度・24年度発掘調査整理作業一覧

平成23年度					
遺跡名・事業名	調査回数	調査番号	調査原因	整理担当	主な作業内容
結七島遺跡	24	2011001	民間宅地造成	龍田優子	基礎整理・報告書作成
中谷内遺跡	15	2011002	県営圃場整備	遠藤恭雄・澤野慶子	基礎整理
内野遺跡	8	2011003			
細池寺道上遺跡	31	2011005	県営圃場整備	前山精明・澤野慶子	遺物実測・遺物図版作成
大沢谷内遺跡	19	2011006	国道整備	潮田憲幸・八藤後智人・牧野耕作 秋山泰利(㈱ノガミ)	基礎整理
古津八幡山古墳	17	2011152	史跡整備範囲確認調査	相田泰臣・渡邊明和・八藤後智人・相澤裕子	基礎整理
林付遺跡	2	2010001	市立小学校体育館建設	相田泰臣	基礎整理・報告書作成
細池寺道上遺跡	30	2010003	県営圃場整備	遠藤恭雄・澤野慶子	遺物実測・遺物図版作成
大沢谷内遺跡	18	2010004	市道改良工事	前山精明	報告書作成・印刷刊行
四石遺跡	2	2008009	市理立処分場建設	渡邊ますみ	報告書作成・印刷刊行
細池寺道上遺跡	25	2007005	県営圃場整備	潮田憲幸	報告書作成
大沢谷内遺跡	7・9・11 12・14	2005004・2006002・2007002 2007006・2008005・2009001	国道整備	立木宏明 細野高伯・伊比博和(㈱シン技術コンサル)	報告書作成・印刷刊行・収蔵作業
試掘確認・工事立会・本発掘調査 再整理事業	—	—	各種事業	渡邊ますみ	収蔵作業・台帳作成
平成24年度					
遺跡名・事業名	調査回数	調査番号	調査原因	整理担当	主な作業内容
大沢谷内遺跡	20	2012001	国道整備	潮田憲幸 秋山泰利(㈱ノガミ)	基礎整理
峰岡城山遺跡	2	2012002	市営体育施設造成	立木宏明 伊比博和(㈱シン技術コンサル)	基礎整理・報告書作成・収蔵作業
細池寺道上遺跡	30	2012006	県営圃場整備	前山精明・牧野耕作 細井佳浩(㈱吉田建設)	基礎整理・遺物実測
日水遺跡	6	2012007	市道改良工事	立木宏明 細野高伯(㈱シン技術コンサル)	基礎整理・報告書作成・収蔵作業
下新田遺跡	6	2012008	県営圃場整備	潮田憲幸	基礎整理
古津八幡山古墳	18	2012217	史跡整備範囲確認調査	相田泰臣・渡邊明和・八藤後智人	基礎整理・遺物実測・写真整理
中谷内遺跡	15・16	2011002・2012004	県営圃場整備	遠藤恭雄 笹澤正史(㈱吉田建設)	基礎整理・遺物実測・報告書作成
内野遺跡	8・9	2011003・2012003			
林付遺跡	2	2010001	小学校体育館建設	相田泰臣	報告書作成・印刷刊行・収蔵作業・台帳作成
細池寺道上遺跡	27	2010003	県営圃場整備	遠藤恭雄・澤野慶子	遺物実測・遺物図版作成
細池寺道上遺跡	26	2008006	県営圃場整備	立木宏明	遺物実測・遺物図版作成
四石遺跡	2	2008009	市理立処分場建設	渡邊ますみ・相澤裕子	収蔵作業・台帳作成
細池寺道上遺跡	25	2007005	県営圃場整備	潮田憲幸	報告書作成
沖ノ羽遺跡	18・19 22・24	2005002・2006005・2007004 2008002	県営圃場整備	遠藤恭雄・澤野慶子	遺物実測・報告書作成
南赤坂遺跡	1・2	1992116・1993002	県指定	相澤裕子	再整理
馬場屋敷遺跡ほか	1・2・3	1983006ほか	再整理	相澤裕子・渡邊明和	再整理
試掘確認・工事立会・本発掘調査 再整理事業	—	—	各種事業	相澤裕子・渡邊明和	収蔵作業・台帳作成

進め、11月には実測作業を開始した。実測点数は約400点である。前年度までに接合作業を終了していた第19次調査5・6区出土土器についても実測約100点を同時に進めた。

一方、第24次調査出土土器は11月から接合を行い、平成25年1月には実測を開始した。実測点数は約500点である。このうち800点については業者委託によるデジタルトレスを行っている。土器の実測は概ね平成25年2月で終了し、引き続き石製品・木製品の実測を行い、平成25年度に終了している。

整理作業の成果 遺物の中心となるのは古代の土器群である。時期はこれまでの沖ノ羽遺跡と同様、9世紀後半が主体となっている。ただ、8世紀代と考えられる土器群も一定量出土しており、古代の中でもある程度の時期幅が想定される。この他に古墳時代、中世の遺物も出土しているが、建物が伴うなど、集落として一定期間存続していたかどうかは今後の検討課題である。

『沖ノ羽遺跡Ⅵ』報告書は平成27年度に刊行の予定である。(澤野慶子)

6 資料の収蔵・保管

(1) 収蔵方針

平成17年度の新潟市と13周辺市町村との広域合併により、新潟市内の考古資料の収蔵量が飛躍的に増加した。

文化財センターを建設するにあたり、新潟市内で発掘調査によって出土した遺物や、写真・図面等の記録類を一括集中管理することを目指した。一括集中管理することで、木簡等の木製品や金属製品等の脆弱遺物、図面・写真等の記録類は適切な温度・湿度の環境で保管することが可能となった。また、土器や石器等も分散することなく、まとめて収蔵することが可能となった。これにより、文化財センターが行う展示等の活用だけではなく、資料閲覧や貸出等の対応も文化財センターで一括して対応することとなった。また、保存処理前の木製品は大形水槽や大形コンテナケース内で仮収蔵できるように配慮した。

なお、旧豊栄市指定文化財の畠山コレクションのような発掘調査によらない考古資料や個人寄贈・寄託資料に関しては、関係機関との協議を行い、従来どおり各区の博物館や資料館等で保管・管理を行うこととした。

このことにより、博物館等で発掘調査資料を展示する場合には文化財センターから貸し出し、文化財センター

で個人寄贈資料等を展示する際には博物館等から借用するというルールが確立した。また、木簡等の重要遺物で長期間貸し出すことが難しい資料に関しては、文化財センターでレプリカを製作し、それらを貸し出して対応することとした。現在は新潟市歴史博物館に的場遺跡出土品、北区郷土博物館に鳥屋遺跡出土土器のレプリカを貸し出している。

(2) 収蔵・保管施設

収蔵・保管施設には、埋蔵文化財収蔵庫・特別収蔵庫1（木製品）・2（金属製品）・資料収蔵庫・図書室・民俗資料収蔵庫がある。民俗資料は(6)に記載した。

埋蔵文化財収蔵庫 土器や石器等の他、鉄滓類・自然遺物・自然乾燥木製品等を収蔵する。2階と3階にあり、発掘調査による増加量を勘案して、オープン後約15年程度の収蔵可能面積として計画された。コンテナケース（60×40×15cm）換算で4万箱の収蔵が可能である。遺物再整理作業により効率よく収納を行ったので、平成25年12月時点で11,117箱収蔵している。

特別収蔵庫1・2 将来的に重要文化財の収蔵保管も可能な施設として、文化庁美術学芸課・東京文化財研究所の指導を受けて設計された。停電で空調機器が停止しても急激な温度・湿度の変化が生じないように、建物の中心部分に収蔵庫を設けたり、地下に大形ピットを設けたりした。また、年間を通じて温度・湿度管理を行い、照明もUVカット型蛍光灯を使用している。特別収蔵庫は保存処理が完了した木製品・金属製品等を収蔵する施設であるが、低湿地遺跡が多い本市では木製品が多く、その収蔵量を勘案して収蔵面積を計画した。

資料収蔵庫 発掘調査の図面や写真フィルム・CD・DVDなどの記録類を収蔵保管する。また、年間を通じて温度・湿度が一定である。

図書室 新潟市の他、全国で刊行された発掘調査報告書等の考古学・歴史関係図書を中心に収蔵保管している。現在は各自治体から寄贈された報告書の他、新潟大学名誉教授甘粕健氏・奈良大学教授坂井秀弥氏・新潟県考古学会前会長藤塚明氏等からの寄贈図書が収蔵されている。

(3) 発掘調査番号

遺物や調査記録類をまとめるために、新潟市内における全ての発掘調査に対し調査番号を付けることとした。調査番号のつけ方は下記①のとおりであり、この方針に従って調査記録類は収蔵されることになる。遺物コンテナケース、図面・写真等の記録等全てに調査番号を付したので、調査番号がわかれば、資料の所在場所が直ちに判明することになった。なお、記録の残る新潟市内の最古の発掘調査は、真島衛・中村孝三郎氏による昭和31

(1956)年の六地山遺跡の発掘調査である。下記の②通算発掘調査年次、③事業別調査年次は、発掘調査報告書等に記載される。

①**発掘調査番号** 全ての本発掘調査・試掘確認調査・工事立会に付けられる。

・本調査：年度毎に、西暦の下に001番からの3桁の調査番号を付す（例 2013001）。

・試掘確認調査・工事立会：年度毎に、西暦の下に101番からの3桁の番号を付す（例 2013101）。

②**通算発掘調査年次** 遺跡毎の調査年次・調査回数（例 ○○遺跡第5次発掘調査）。遺跡毎の試掘確認調査・本調査の回数を示すもので、工事立会は含まない。

③**事業別調査年次** 遺跡単位で、調査原因（事業）毎に付けられた調査年次・調査回数（例 △△事業に伴う○○遺跡第2次調査）。

②と③により、○○遺跡第5次発掘調査－△△事業に伴う第2次調査－のように表される。

(4) 再整理作業

文化財センター建設を見据え、平成18年度から考古資料の所在調査を行い、合併市町村にある資料を北区太郎代の埋蔵文化財センターと秋葉区の埋蔵文化財センター新津分室に集め、再整理作業を行った。

再整理作業では、発掘調査報告書や自治体史に図面や写真図版として報告されている遺物については、1点管理台帳を作成することとした。文献を基にすれば、遺物検索が可能で所在場所も直ちにわかるようにするためである。そして、これらの報告書掲載遺物と報告書未掲載遺物を分けてコンテナケースに収蔵し、コンテナケースにはコンテナケース番号を付すとともにコンテナケース台帳を作成した。作業は平成21年度・22年度に緊急雇用対策事業として業者に委託して行うほか、埋蔵文化財センターで臨時職員を直接雇用して行った。作業は国庫補助事業としても行っており、現在も継続中である。

出土品は、埋蔵文化財収蔵庫・特別収蔵庫1・2に収蔵保管される①報告書掲載遺物、②報告書未掲載遺物、③試掘確認調査・工事立会遺物、④寄贈品等発掘調査以外の遺物、⑤木製品・骨角器・自然遺物、⑥金属製品・鉄塊等に分けられる。それぞれを区別できるように記号化してコンテナケース番号を付けて収蔵保管している。

(5) 収蔵資料のデジタル化及びデータベース化

遺構に関しては遺構台帳を作成し、図面や写真等の記録類に関しても保存と活用のために紙やフィルムなどのアナログデータのデジタル化を行った。

全ての発掘調査図面は業者に委託してのデジタルデータ化（jpg・pdf）とするとともに、図面台帳を作成した。

表8 文化財センター収蔵のための再整理作業・資料のデジタル化・データベース化事業一覧

①平成21年度～24年度国庫補助事業

事業名	形態	金額(円)
平成21年度埋蔵文化財保存活用整備事業	直接雇用	4,426,365
平成22年度埋蔵文化財保存活用整備事業	直接雇用	4,423,440
平成23年度史跡等及び埋蔵文化財公開活用事業	直接雇用	7,122,863
平成24年度史跡等及び埋蔵文化財公開活用事業	直接雇用	4,358,499

②平成21年度 緊急雇用創出特別基金事業

事業名	委託先	金額(円)
埋蔵文化財センター図書資料データ作成業務	㈱BSNアイネット	10,449,831
埋蔵文化財センター図書資料データ作成業務(追加分)	㈱BSNアイネット	2,572,500
埋蔵文化財センター写真フィルムデジタル化業務	㈱新潟フジカラー	4,963,959
旧巻町出土品等再整理事業	㈱ノガミ	10,500,000
旧巻町出土品等再整理事業(追加分)	㈱ノガミ	1,879,500
発掘調査図面類データ作成事業	㈱オリス	12,075,000
出土品再整理事業(埋文センター)	直接雇用	3,992,750
出土品再整理事業(新津分室)	直接雇用	2,690,600
合計		49,124,140

③平成22年度 緊急雇用創出特別基金事業

事業名	委託先	金額(円)
埋蔵文化財センター図書資料データ作成業務(追加分)	㈱BSNアイネット	1,065,750
埋蔵文化財センター写真フィルムデジタル化業務	㈱新潟フジカラー	9,789,150
旧豊栄市等出土品再整理事業	㈱ノガミ	15,916,000
発掘調査図面類データ作成事業	㈱オリス	1,276,800
出土品再整理事業(埋文センター)	直接雇用	9,819,700
出土品再整理事業(新津分室)	直接雇用	3,375,500
合計		41,242,900

デジタル化をした図面の枚数は、平成22年度に3,272枚、平成23年度に212枚である。この他に平成22年度には歴史文化課所有の新潟市の古地図等180枚のデジタル化を行った。現在は、発掘調査図面の殆どが業者に委託したデジタルデータ(CADデータ)であるが、手書き図面に関しては今後もデジタル化を継続する必要がある。

また、平成21年度から23年度にかけて写真のデジタル化を行った。業者に委託してフィルムをスキャナーで読み込んでjpgデータにするとともに、写真台帳を作成した。デジタル化したフィルムのカット数は平成21年度に20,104枚、平成22年度に27,403枚、平成23年度に25,572枚である。なお、平成24年度からは発掘調査終了後速やかにデジタル化を行っており、データ形式も汎用性を考えて現在はtiffデータとしている。

発掘調査報告書に関してもデジタルデータがないものに関し全てデジタル化を行った。業者に委託して、各一部ずつ解体してスキャナーで読み込んでpdfデータとした。デジタル化を行った報告書は112冊である。現在は印刷業者に報告書を入稿する前もしくはその後にpdfデータを作成している。

収蔵図書に関しても平成21年度・22年度に業者に委託して書誌データ(CSV形式)を作成した。データ作成をした図書数は、埋蔵文化財センター所蔵図書と甘粕健氏・坂井秀弥氏から寄贈された約44,000冊である。その後も、図書の寄贈や購入があるために現在も書誌データ登録作業は継続中である。

(6) 民俗資料等

文化財センターの東側に隣接する旧木場小学校校舎は平成16年度から歴史文化課の所管となり、「大形民具収蔵庫」として利用され、現在に至っている。基本計画策定時には、文化財センター敷地内に旧黒崎常民文化史料館として利用されてきた市指定文化財民家旧宅(旧武田家住宅)を移築して、埋蔵文化財と共に活用する計画が立てられた。このような経緯の中、文化財センターに民俗資料収蔵庫が併設されることになった。民俗資料収蔵庫には一部鋼製床組が作られ、面積は416.58㎡である。収蔵庫には旧黒崎常民文化史料館所蔵資料約2,100件^注と旧新潟市所蔵資料の一部約830件が収蔵されている。なお、平成23年度からは非常勤職員を雇用し、新潟市歴史博物館の学芸員の指導を受けながら民俗資料の整理作業や台帳作成を実施している。

収蔵品には蒲原地域の低湿地で使用されていた農具・漁具・生活用具があり、遺跡から出土する遺物に類似するものもあり注目される。また、大形民具収蔵庫にあった木造船等も収蔵展示しており、エントランスや研修室のガラス窓から見学することが可能となっている。

現在、大形民具収蔵庫の敷地・建物は文化財センターが、収蔵品の民俗資料は全て歴史文化課・新潟市歴史博物館が管理を行っている。「新潟市文化財センター」は、一般的には埋蔵文化財センターとすべき施設であるが、この民俗資料収蔵庫があるが故に、文化財センターとなったものである。基本計画では考古資料と現代とを繋ぐものとして民俗資料を位置づけており、より一層の活

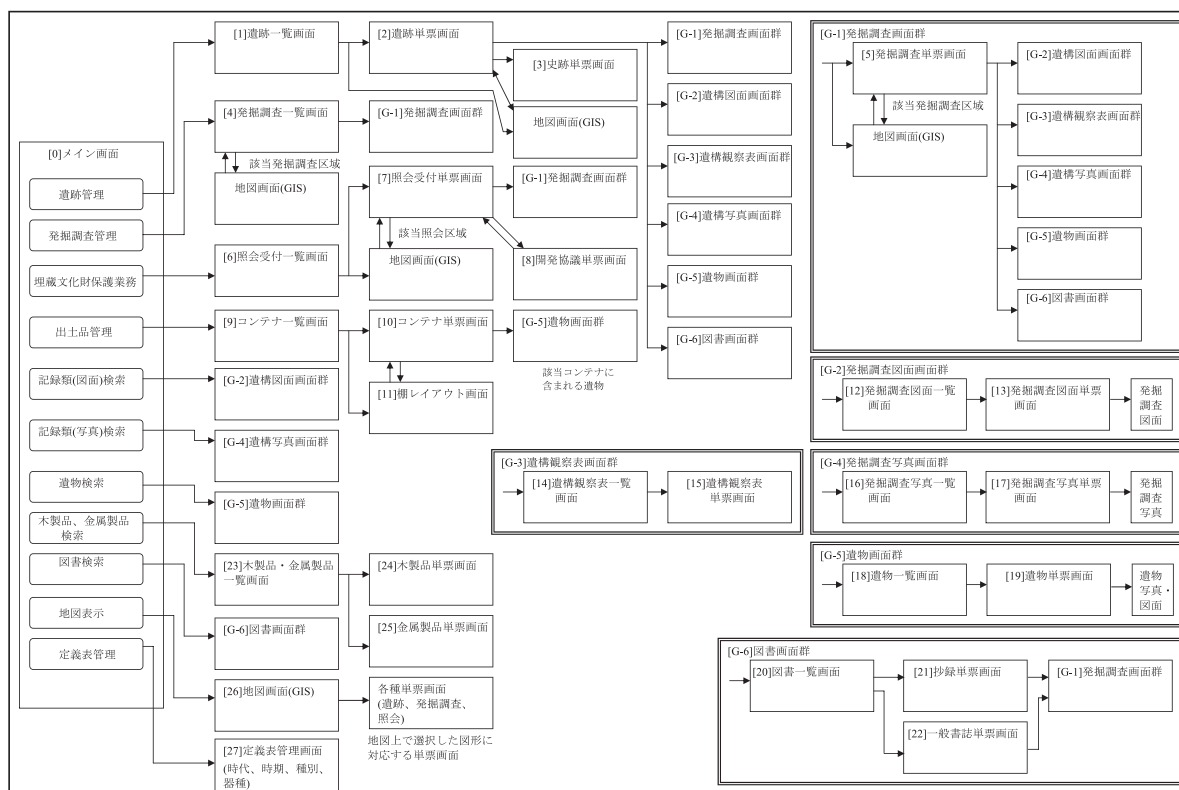


図2 埋蔵文化財情報管理システム画面遷移図

用が望まれる。

(7) 埋蔵文化財情報管理システム

文化財センター開館に先立って、平成21年度に『埋蔵文化財情報管理システム』を構築した。全庁的な統合型GISのサブシステムとして機能し、背景の地図情報は基本的に統合型GISのデータを利用している。遺跡管理のための地理情報管理システム（GIS）と発掘調査記録や収蔵品管理のためのデータベースの機能を併せ持ったシステムである。データベース上から地図画面に、逆に地図上からデータベース画面に行くことも容易である。埋蔵文化財の管理と活用、デジタル化した記録類のデータ管理を目的としたものである。

詳細は画面遷移図に記載されているが、機能としては、下記の5項目に大別される。

①埋蔵文化財保護業務 開発事前審査として、照会受付の登録を行う。主に歴史文化課埋蔵文化財係窓口で行う開発事前審査で利用されている。

②地 図 遺跡範囲・開発照会や調査範囲を表示する。背景地図は、住宅地図・国土基本図・地番図・航空写真・米軍撮影航空写真・大正3年旧陸軍作成地図等である。当該地の旧地形が容易にわかるので、開発照会の際に遺跡の存否を推察する重要な根拠になっている。また、地図上には全ての調査範囲、全ての照会範囲が記入され、上記①でその取扱い記録が記入されているので、

周辺で開発照会があった場合には、遺跡カルテのように過去の取り扱い記録を確認することが可能となっている。

③発掘調査記録類管理 遺跡名・発掘調査年度・発掘調査種別・時代等で検索が可能で、発掘調査図面や発掘調査写真・遺構属性表の登録・管理を行う。

④埋蔵文化財・収蔵品管理 遺跡・史跡、出土品等の収蔵品の登録・管理を行う。報告遺物は1点ずつ、未報告遺物はコンテナケース単位で登録・管理を行う。また、報告遺物は遺物属性表の登録も行う。遺物の時代・種別等での検索が可能である。

⑤図書管理 発掘調査報告書・一般図書・定期刊行物等の収蔵図書の書誌情報を登録・管理する。④の埋蔵文化財管理画面から関係文献を検索も可能である。

システムは①埋蔵文化財保護業務では年間5千件以上もある開発事前審査に対し、効率的、迅速な対応が可能になった。一方で、発掘調査記録類の入力が進んでおらず課題となっている。web上に埋蔵文化財情報を公開することを目的としてシステムを構築したが、セキュリティ上や著作権法上の課題があり、遺跡位置と簡単な情報しか公開していないのが現状である。（渡邊朋和）

注 点数ではなく件数としたのは、台帳1件に対し数点の資料が管理されているため。

7 教育普及活動

(1) 展 示

新潟市文化財センター条例の設置目的にある「埋蔵文化財及び有形民俗文化財を保存し、及びこれらの活用を図る」主な事業の一つとして埋蔵文化財・有形民俗文化財の展示を行っている。旧埋蔵文化財センターでも狭い教室（約31.68㎡）を利用して埋蔵文化財の展示を行っていたが、展示面積は飛躍的に広がった。

文化財センターの展示は以下のような方針で進められた。文化財センターには市内から出土した埋蔵文化財が大量にあり、これからも毎年行う発掘調査で新資料が増えるため、博物館のようにストーリー性を持った固定的な展示ではなく、展示品・グラフィックパネル共に自ら容易に変更できるようにする。そして、出土品をできるだけ多く展示し、出土品そのもので何かを感じ取ってもらうように展示方法を工夫する。ともすれば、展示品ではなく展示解説に目が奪われがちなので展示解説は極力少なくし、来館者には職員やボランティアが展示解説をすることで補っていく。展示は、導入展示・文化財センターの活動・通史展示・企画展示・速報展示の4本立てとする。

グラフィックパネルは壁面に接着剤等で貼り付けてしまうと変更・更新が難しいので、全ての展示ケース壁面にシステムウォールを取り付け、A3・A2サイズ等の既製品のアルミパネルにグラフィックを入れれば、容易に展示替えができるようにした。フックとワイヤーによってパネルを取り付けることもできる。グラフィック製作のために、専用コンピュータソフトやプリンターを購入することも検討したが、コストを考えると業者委託で製作した方が良いとの考えから購入は見送ることとした。開館時の出土品の展示点数は約1,400点である。

また、展示準備室を兼ねて、1階の廊下2の幅を約3.5mと広く取り、予備の展示ケースや展示台を置く場所とした。展示諸室として、速報展示を行うエントランスホール、導入展示を行う展示室1と、主な展示を行う展示室2がある。諸室面積は、エントランスホール207.67㎡・展示室1（導入展示室）57.57㎡・展示室2（展示室）205.24㎡で、展示室1・2併せて262.81㎡である。展示室・展示ケース内の照明は省エネルギーを配慮して全てLEDを利用している。

また、三面ガラスハイケース（2,700×1,200×2,700mm）4台、傾斜型覗きケース（1,800×900×1,000mm）2台、行燈型四面ガラスケース（900×900×2,100mm）2台を用意し、展示替え時に利用できるようにした。

展示室は、文化庁美術学芸課・東京文化財研究所の指導を受けて、将来的に重要文化財の展示可能な施設として設計された。指定品の展示は展示室2を想定し、部屋全体の温度・湿度管理を行うだけでなく、4面あるウォールケースは全てエアタイトケースとし、調湿剤によってケース単位の湿度調整が可能となっている。また、エントランスホールと展示室1、展示室1と展示室2の間には自動ドアを設け、展示室2は外気の流入による急激な温度・湿度の変化が生じないように配慮した。

なお、3年以上経過してもエアタイトケースの木質部に起因すると考えられる酸性・アルカリ性物質やアンモニア成分の濃度がなかなか低くならない状況にある。夜間や休館日にエアタイトケースの扉を開けてサーキュレーターで換気を行うことによって、早急に改善を図っていきたいと考えている。

エントランスホール 新潟市内の砂丘や河川、各時代の遺跡分布状況を示した「文化財センターガイド」のと、各時代の代表的な大形土器を年代順に展示したステージがある。後者には縄文土器1、古墳時代土師器2、平安時代須恵器大甕2、近世大甕4点を展示している。また、可動展示ケースでは速報展示等を行っている。

展示室1 導入展示室兼展示室2の前室としての機能を有している。「歴史を伝える出土品の世界」と題して、市内で出土した縄文時代から近世の土器陶磁器145点、縄文時代から近世の木製品158点を壁一面に展示している。土器を展示する壁面の高さは3m近くあり、上にある土器の仔細は分からないかもしれないが、各時代の土器の変遷や特徴を一目で見ることができる。また、木製品も古墳時代から近世の遺物を概ね種類ごとにまとめて展示を行っている。

低湿地遺跡が多く、またそこから見つかる木製品も多いという新潟市の遺跡の特徴を来館者に知ってもらうために、多量の木製品展示を計画した。一般的には遺物の保存性から脆弱な木製品の露出展示は避けられる傾向にあるかもしれない。展示した以外に大形の曲物等木製品の優品が数多くあるが、遺物の保存に考慮し、古い発掘調査による自然乾燥木製品を主に展示している。また、保存処理を行った遺物も劣化が進行しないか経過を観察しているが問題は起きていない。また、古代から近世の木簡も多く見つかったが、これらも保存のために実物を展示することができないため、95点のレプリカを製作して展示している。展示室1を訪れた見学者からは、「展示してある遺物は全て本物ですか？こんなにたくさんさんの遺物が市内から見つかったとは知りませんで

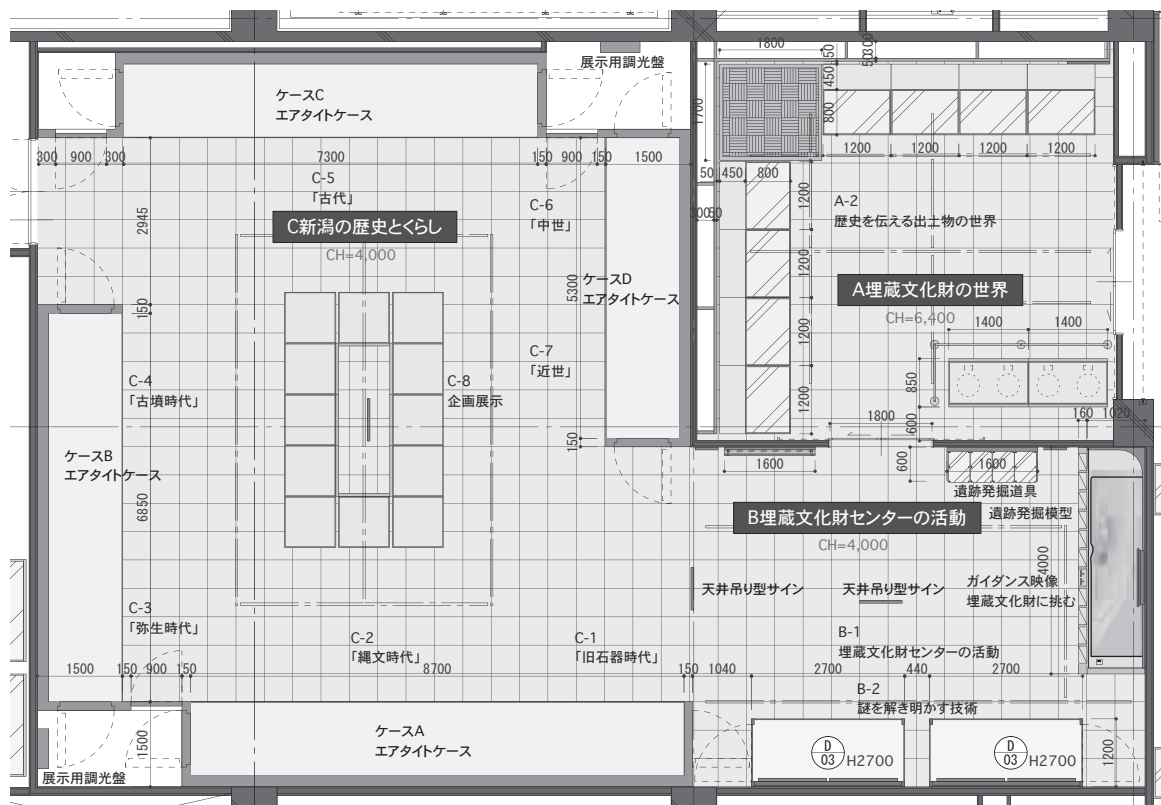


図3 展示室平面図



展示室1



展示室2

した。」というような感想をいただいている。

展示室2「新潟市文化財センターの活動」では、文化財センターが行っている発掘調査現場を再現した西区四十石遺跡のジオラマと、発掘調査・整理作業で使用する器材を展示している。また、作業の流れを解説した映像がある。4面のウォールケースでは「遺跡が語る新潟市の歴史」と題して旧石器時代から江戸時代までの通史展示を行っている。一般になじみの薄い原始・古代・中世・近世等とせず、旧石器時代、縄文時代、弥生時代、古墳時代、飛鳥・奈良・平安時代、鎌倉・南北町・室町時代、安土・桃山・江戸時代としている。

中央部分は企画展示コーナーで、900×900mmの展示台

15台で構成され、1台毎にアクリルカバーが付けられている。開館時には「交流 交じり合う文化」と題する企画展を行い、新潟市の埋蔵文化財の特徴である信濃川・阿賀野川・日本海を介して伝わったと考えられる縄文時代から江戸時代までの出土品を展示した。(渡邊朋和)

(2) 公開講座

文化財は歴史的・文化的資産としてだけでなく、地域の成り立ちなどを知る地域資産や教育的資産でもある。新潟市ではこれらの資産を普及事業として積極的に公開・活用し、地域の歴史や文化に対する意識や愛着を育んでいきたいと考えている。

新潟市ではこれまでも遺跡発掘調査速報会や発掘調査

表9 平成23年度公開講座一覧

リレー講座			
年月日	内容	講師	人数
2011/9/24 (土)	蒲原の縄文文化をさぐる	前山精明	17
2011/10/30 (日)	史跡古津八幡山遺跡を展示する	渡邊明和	30
2011/11/23 (水・祝)	史跡菖蒲塚古墳と古津八幡山古墳を探る	相田泰臣	31
2011/12/18 (日)	新潟の原風景 - 低地に展開した古代の集落 -	渡邊ますみ	53
2012/3/18 (日)	古代水田を探る	潮田憲幸	34
歴史体験講座			
年月日	内容	講師	人数
2011/8/6 (土)	子ども歴史体験 (縄文土器を作ろう)	磯部保衛	30
2011/9/25 (日)	大人の土器づくり	磯部保衛	11
2011/9/30 (金)	大人の土器づくり	磯部保衛	5
2011/10/1 (土)	子ども歴史体験 (土笛を作ろう)	前山精明	7
2012/1/29 (日)	子ども歴史体験 (石器を使おう)	立木宏明	10
民俗体験講座			
年月日	内容	講師	人数
2011/9/11 (日)	武田家イベント (昔のあそび 竹トンボ・風車)	わらべ会	4
2011/11/13 (日)	武田家イベント (昔の暮らし体験 かまどでご飯炊き)	酒井和男	30
2011/12/11 (日)	武田家イベント (わらざうりづくり)	黒崎民具保存会	15
開館記念シンポジウム「遺跡からさぐる新潟の原点」			
年月日	内容	講師	人数
2011/8/21 (日)	基調講演 日本の中の新潟	坂井秀弥 (奈良大学教授)	300
	縄文・弥生時代の新潟	石川日出志 (明治大学教授)	
	古墳時代の新潟	橋本博文 (新潟大学教授)	
	奈良・平安時代の新潟	小林昌二 (新潟市歴史博物館館長)	
	シンポジウム 「遺跡からさぐる新潟の原点」		
新潟市遺跡発掘調査速報会			
年月日	内容	講師	人数
2012/2/19 (日)	報告 古津八幡山古墳 - 県内最大の首長墓 -	相田泰臣	180
	報告 大沢谷内遺跡 - 縄文・鎌倉の複合集落 -	潮田憲幸	
	報告 小坂居付遺跡 - 鎌倉～室町時代の屋敷地と水田 -	佐藤友子 (新潟県埋蔵文化財調査事業団)	
	講演 蒲原平野に古墳を追って三十余年	甘粕健 (新潟大学名誉教授)	
ボランティア養成講座			
年月日	内容	講師	人数
2011/4/29 (金・祝)	顔あわせ・縄文原形づくり	高橋保	16
2011/5/22 (日)	武田家のかまどでご飯炊き	黒崎民具保存会	10
2011/6/25 (土)	展示解説	高橋保	15
2011/7/23 (土)	接遇・マナー	原田愛 (MCカンパニー)	13
2012/3/25 (日)	ふりかえり・次年度新メニュー体験	今井さやか	10



平成23年度新潟市遺跡発掘調査速報会

現地説明会、広聴課の「動く市政教室」での遺跡めぐりの開催などを行ってきた。平成23年度に文化財センターの開館により、これまでの事業に加えて募集型の講座やイベントの開催や学校など団体の利用などが可能となった。また、平成21年度より文化財センターの開館を見据えて、ボランティアの募集を行い、開館まで月1回程度の間隔でボランティア講座を行った。

(a) 平成23年度公開講座

講座 開館記念リレー講座として、全5回の日程でセンター職員が各時代をテーマに講座を行った。

体験講座 歴史体験講座・民俗体験講座を開催した。歴史体験講座では縄文土器・土笛作り、「石器を使おう」を行った。また、民俗体験として、敷地内の旧武田家住宅で「昔のあそび」、「かまどでご飯炊き」、「わらざうりづくり」を行った。特にかまどを使ったごはん炊きは、定員超過となる人気であった。

開館記念シンポジウム 開館記念行事として8月21日(日)に開館記念シンポジウム「遺跡からさぐる新潟の原点」を新潟市民プラザで開催した。このシンポジウムは、「発掘された日本列島展」を開催している新潟市歴史博物館との共催ということもあり、県外からの参加者も多く、約300名の参加があった。また、このシンポジウムの記録集を3月に刊行した。

速報会 平成19年度から毎年開催されている「遺跡発掘調査速報会」では、これまで使用していた会場が定員130名と狭く、希望のする方全員が参加できない状態が続いていたため、平成23年度より会場を定員400名の新潟市民プラザに変更した。これにより当日受付で誰でも参加することが可能になった。アンケートでも、広い会場となってよかったという意見が多く寄せられた一方、さらなる集客の努力を問う意見もあがった。速報会では、その年発掘調査された遺跡の調査報告だけでなく、毎年外部講師を招へいし、記念講演を行っている。平成23年度は、「蒲原平野に古墳を追って三十余年」と題し、新潟大学名誉教授の甘粕健氏を迎え、講演を行っていただいた。甘粕先生はこの年の8月にご逝去され、この講演が先生の最期の講演となった。

ボランティア養成講座 展示解説勉強会のほか接遇・マナー研修を行った。団体見学の際の展示解説や体験活動の際にこの講座を受講したボランティアに活動していただいている。

(b) 平成24年度公開講座

講座 考古学と民俗学関連の講座を行った。考古学関連の講座では「考古学講座二人会」と題し、一つの時代を二人の講師が違う切り口で解説することとし

た。民俗学講座については、平成24年度が初めての試みであった。

また観察再現講座とし、ものを観察しその作り方をじっくり学ぶ講座を開催した。特に12月に開催した「曲物の制作工程を見る」では、現在寺泊でせいろ・わっぱ製作

表10 平成24年度公開講座一覧

考古学講座			
年月日	内容	講師	人数
2012/4/28 (土)	御井戸遺跡と木の文化	前山精明	—
2012/6/24 (日)	古津八幡山遺跡を探索する ※弥生の丘展示館で開催	渡邊明和	22
2012/9/24 (月・休)	新潟市内の古墳時代集落について	春日真実 (新潟県埋蔵文化財調査事業団)	34
	新潟市の古墳と古津八幡山古墳の調査について	相田泰臣	
	水辺に展開した古代の集落	渡邊ますみ	
2012/11/23 (金・祝)	出土文字資料からわかる新潟の古代	相澤央 (新潟市歴史文化課)	34
	遺跡から出土した中世の舟と内水面交通について	遠藤恭雄	
	中世の祈り	伊藤啓雄 (柏崎市教育委員会)	40
2013/1/20 (日)	新潟移転の伝承について	南憲一 (元新潟市史編纂課長)	63
	近世新潟町跡について	渡邊ますみ	
観察再現講座			
年月日	内容	講師	人数
2012/5/5 (土・祝)	的場遺跡の和同開珎をつくる	今井さやか	8
2012/6/16 (土)	大沢遺跡の縄文土器をつくる 【大人向け】3週連続 (6/16、6/23、6/30)	高橋保、磯部保衛	18
2012/12/1 (土)	曲物の製作工程をみる	足立照久 (足立茂久商店11代目)	15
2013/2/3 (日)	石器の製作工程をみる ※弥生の丘展示館で開催	磯部保衛	15
民俗講座・体験講座			
年月日	内容	講師	人数
2012/5/12 (土)	蒲原平野の民家と旧武田家住宅の特色について	山崎完一 (新潟県文化財保護審議委員)	30
2012/9/8 (土)	民具から見た新潟・黒埼地区の特色	池田哲夫 (新潟大学教授)	12
2012/10/21 (日)	昔のくらし体験 かまどでご飯炊き	酒井和男	10
2012/12/8 (土)	仕事着等衣類からみた新潟の特色	長井久美子 (新潟県民俗学会会員)	15
夏休み子ども歴史体験			
年月日	内容	講師	人数
2012/7/29 (日)	文化財センター仕事体験 君も考古学者	今井さやか	6
2012/8/5 (日)	縄文土器を作ってみよう ~高さ15cmの土器づくり	今井さやか、 まいぶんポートボランティア	26
新潟市遺跡発掘調査速報会			
年月日	内容	講師	人数
2013/2/24 (日)	講演 越後平野の地盤とその生い立ち	鴨井幸彦 (地質技術者)	250
	報告 古津八幡山古墳 -県内最大の古墳はこうして造られた-	相田泰臣	
	報告 日本道跡 -亀田砂丘沿いに暮らした古墳時代・平安時代の人々-	立木宏明	
	報告 細池寺道上遺跡 -平安時代から鎌倉・室町時代にかけての川辺利用の移り変わり-	前山精明	
	報告 大沢谷内遺跡 -大きな井戸がみつかった平安時代の集落-	潮田憲幸	
	報告 近世新潟町跡 -中心市街地に眠る日本海側有数の湊町-	渡邊ますみ	
ボランティア養成講座			
年月日	内容	講師	人数
2012/11/18 (日)	オリエンテーション 新潟市の遺跡概説①	潮田憲幸、立木宏明、高橋保、 渡邊明和、相田泰臣	23
2012/12/2 (日)	新潟市の遺跡概説②	潮田憲幸、相澤裕子、 今井さやか	25
2012/12/16 (日)	弥生時代特論 ※弥生の丘展示館で開催	渡邊明和	15
2012/12/23 (日・祝)	民俗文化財と旧武田家住宅について	森 行人 (みなとびあ)	16
2013/3/3 (日)	体験講座①土器づくりと火起こし体験 ※弥生の丘展示館で開催	磯部保衛	11
2013/3/24 (日)	体験講座②勾玉づくりと石斧・弓矢体験 ※弥生の丘展示館で開催	磯部保衛	14
2013/4/14 (日)	遺跡の保存と整備活用について ※弥生の丘展示館で開催	渡邊明和	9



平成24年度観察再現講座「曲物の製作工程をみる」



平成24年度夏休み子ども歴史体験
「文化財センター仕事体験 君も考古学者」

していただき盛況であった。

速報会 平成24年度の遺跡発掘調査速報会では、講演の部にこれまでの考古学関連でなく地質技術者の鴨井幸彦氏を講師にお招きした。アンケートでも「自然科学分野からの視点により理解が深まった」「地盤の話聞く機会があまりないのでよかった」などの感想が寄せられた。

ボランティア養成講座 弥生の丘展示館の開館もあり、新規にボランティアを募集するためボランティア養成講座を行った。

通史、弥生特論、民具、体験などを11月から翌年3月にかけて行った。講座を受ける期間が長く間隔があいてしまったり、冬期間で来館者が少なく、実際の解説を試す機会を逸してしまったりと、なかなか新規ボランティアの定着にいたらなかった。

(c) 出前講座・職員派遣

文化財センターでは、研究団体、地方自治体、市民団体などに依頼に応じて職員派遣を行っている。新潟市では、通常の派遣申請以外に、市民が市政に関するテーマについて学びたい場合に職員を派遣する「市政さわやかトーク宅配便」制度がある。これはFAXやメールで必要事項を記載し担当課に送れば、その他の書類手続きが不要という簡便さが利点の制度である。

平成23年度 出前講座のテーマとして最も多かったのが古津八幡山遺跡関連である。元々希望の多いテーマではあったが、史跡整備をしている最中ということもあ

を行っている講師から製作実演や遺跡出土の曲物との共通点・相違点について解説いただき大変好評であった。

体験イベント 子ども向け歴史体験「縄文土器づくり」「文化財センター仕事体験」を夏休みに開催した。また、民俗体験の「かまどでご飯炊き」を開催した。

はじめての試みとしては、西区地域課主催の西区ふれあいまつりに出店し、弥生の丘展示館の人気メニューである弓矢体験を行った。安全確保のために野球場ブルベンを利用しての体験だったが、2日間で730名から体験

り、特に関心が高かった。

平成24年度 講座形式の依頼以外に「火起こし体験」や「縄文土器づくり」などの体験活動を目的とした派遣が増加した。

(3) 施設利用

文化財センターでは、展示見学のほかに「体験コーナー」として研修室の一部を使用して新潟や埋蔵文化財に関連した体験学習ができるスペースを設置している。体験コーナーでは、「開館時間中であれば、いつでもだれでも予約なしでできる個人向け体験」と、「予約をいただいた団体向けの体験」の2種類がある。いずれも材料費相当の負担をいただいている。また、無料の体験として新潟市から出土した土器をもとに制作した「土器パズル」が4点ある。

また、旧武田家住宅及び体験広場（芝生）の貸出（有料）を行っている。利用状況は表12のとおりである。

(a) 平成23年度

平成23年度の個人向けの体験として、滑石を使用した「勾玉づくり」や文化財センターの仕事を体験する「拓本体験」を、団体向けには「火起こし体験」、「土器・土偶づくり」を行っている。

個人向け体験では、特に「勾玉づくり」に人気があり、一人で何個も作る小学生がいたほどである。無料体験の土器パズルも破面に磁石を埋め込んだ立体的なパズルで、小さな子どもを中心に大変好評である。センターでは、パズルと一緒にストップウォッチを置き、完成までのタイムをはかり、ランキング表を作成している。このため、何度もチャレンジする子ども

表11 平成23年度・24年度職員派遣一覧

平成23年度					
年月日	用件	会場	依頼者	派遣職員名	
2011/6/5 (日)	講演 八幡山遺跡の意義と重要性 ～国指定に至るまで	古津八幡山遺跡	郷土に親しむ会	渡邊明和	
2011/9/15 (木)	八幡山遺跡について	古津八幡山遺跡	新津第二中学校	渡邊明和	
2011/10/2 (日)	古津八幡山遺跡	古津八幡山遺跡	新潟県地名研究会	相田泰臣	
2011/10/10 (月・祝)	大江山縄文市	大江山公園 (江南区)	大江山縄文市実行委員会	廣野耕造 今井さやか	
2011/10/16 (日)	講演 古津八幡山遺跡のなりたちと周辺の環境、 遺跡の保存等について	古津八幡山遺跡	NPO法人にいがた里山研究会	渡邊明和	
2011/10/27 (木)	遺跡について (大沢谷内遺跡発掘現場と古津八幡山遺跡)	大沢谷内遺跡 古津八幡山遺跡	小須戸小学校	潮田憲幸 相田泰臣	
2011/12/2 (金)	江南区郷土資料館のあり方に関する懇談会オ プザーパー	亀田郷土資料館	江南区地域課	今井さやか	
2012/1/20 (金)	町上遺跡出土遺物 (土器) の整理方法指導	上越市柿崎区	新潟県埋蔵文化財調査事業団	高橋 保	
平成24年度					
年月日	内容	会場	依頼者	派遣職員名	
通年	個別研究 「新潟県域の弥生時代の研究」研究協力者	新潟県立歴史博物館	新潟県立歴史博物館	渡邊明和	
通年	三条市出土の縄文土器の修復・復元指導	三条市埋蔵文化財調査室	三条市生涯学習課	寺崎裕助	
通年	耳取遺跡調査指導委員	耳取遺跡 (見附市)	見附市教育委員会	寺崎裕助	
2012/5/1 (火)	火起こし体験	大夫浜小学校	大夫浜小学校	今井さやか	
2012/5/19 (土)	縄文土器づくり	馬高縄文館	長岡市立科学博物館	磯部保衛	
2012/6/2 (土)	講演 大沢谷内遺跡の形成と石油資源の利用	小須戸地区ふれあい会館	秋葉区地域課	前山精明	
2012/6/14 (木)	講演 国史跡古津八幡山遺跡の保存整備と活用	新潟会館	新潟県文化財保護連盟	渡邊明和	
2012/7/28 (土)	縄文土器づくり (石器まつり準備)	馬高縄文館	長岡市立科学博物館	磯部保衛	
2012/7/29 (日)	ふじはし石器まつり	藤橋歴史の広場	長岡市立科学博物館	磯部保衛	
2012/8/2 (木)	縄文体験実習	農と縄文の体験実習館	津南町教育委員会	磯部保衛	
2012/8/3 (金)	講演 火炎土器のルーツをさぐる	馬高縄文館	長岡市立科学博物館	寺崎裕助	
2012/10/8 (月・祝)	大江山縄文市	大江山公園 (江南区)	大江山地区コミュニティ協議会	廣野耕造 今井さやか	
2012/10/9 (火)	六反田南遺跡調査指導	六反田南遺跡 (糸魚川市)	新潟県埋蔵文化財調査事業団	寺崎裕助	
2012/10/29 (月)	世界遺産関連史跡等の視察ならびに指導	佐渡博物館ほか	佐渡市	高橋 保	
2012/11/11 (日)	講演 面の中には何がわまっている？ 亀田の遺跡	がっここむかめだ	NPO法人ボランティア亀田	今井さやか	
2012/11/11 (日)	講演 新潟県における古墳時代の集落と古墳	新潟大学五十嵐キャンパス	新潟史学会	相田泰臣	
2012/11/27 (火)	科学研究費補助金「先史時代の儀礼食の研究」 土器使用実験・サンプリング	農と縄文の体験実習館	新潟県立歴史博物館	寺崎裕助	
2012/12/22 (土)	講演 新潟市古津八幡山古墳の調査成果	新潟市歴史博物館	文化財保存新潟県協議会	相田泰臣	
2013/1/11 (金)	市町村等埋蔵文化財専門職員実務研修 「縄文時代前期～後期の土器の留意点」	新潟県埋蔵文化財センター	新潟県教育庁文化行政課	寺崎裕助	
2013/1/27 (日)	講演 新潟市の縄文時代の低湿地遺跡	新潟市民プラザ	信濃川火焔街道連携協議会	前山精明	

表12 平成24年度旧武田家住宅利用状況

年月日	利用者名	目的
2012/7/1 (日)	山口拓郎 (黒埼とんと)	語り部の会
2012/10/12 (金)	柗自遊人	かまど写真撮影

表13 平成23年度・24年度体験利用人数

平成23年度													
個人													
メニュー	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
拓本体験	-	-	-	1	71	19	24	14	1	6	2	20	158
勾玉づくり	-	-	-	8	157	52	27	30	6	37	14	33	364
勾玉づくり (スピード)	-	-	-	14	45	9	9	4	2	3	6	15	107
合計	-	-	-	23	273	80	60	48	9	46	22	68	629
団体													
メニュー	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
拓本体験	-	-	-	0	124	116	115	0	0	0	0	0	355
勾玉づくり	-	-	-	0	0	0	2	76	0	0	0	0	78
土器・土偶づくり	-	-	-	0	0	244	91	39	0	0	0	0	374
火起こし体験	-	-	-	0	0	244	79	76	39	0	0	0	438
合計	-	-	-	0	124	604	287	152	78	0	0	0	1,245
平成24年度													
個人													
メニュー	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
拓本体験	8	3	4	5	20	1	2	3	0	3	0	6	55
勾玉づくり	54	92	32	50	171	52	42	42	9	26	12	39	621
勾玉づくり (スピード)	9	15	2	2	9	4	4	3	0	0	0	2	50
鑄造体験	26	25	8	18	78	2	7	17	0	0	3	3	187
合計	97	135	46	75	278	59	55	65	9	29	15	50	913
団体													
メニュー	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
拓本体験	44	0	0	0	108	0	4	3	0	0	0	0	159
勾玉づくり	0	0	0	76	77	51	85	42	99	0	0	22	452
鑄造体験	0	0	0	0	0	0	9	17	0	7	0	0	33
土器・土偶づくり	265	5	0	0	68	134	11	0	17	13	0	0	513
火起こし体験	265	34	0	16		185	94	0	97	13	0	22	726
合計	574	39	0	92	253	370	203	62	213	33	0	44	1,883

表14 平成23年度・24年度文化財センター入館者数

平成23年度					平成24年度				
月	開館日数 (日)	入館者数(人)			月	開館日数 (日)	入館者数(人)		
		個人	団体	計			個人	団体	計
4	-	-	-	-	4	26	1,025	636	1,661
5	-	-	-	-	5	25	996	235	1,231
6	-	-	-	-	6	26	816	194	1,010
7	2	313	0	313	7	26	743	383	1,126
8	26	2,477	149	2,626	8	27	937	270	1,207
9	26	1,225	679	1,904	9	25	646	390	1,036
10	26	1,136	353	1,489	10	26	527	409	936
11	25	685	274	959	11	24	506	238	744
12	20	404	71	475	12	23	426	43	469
1	24	509	34	543	1	24	401	13	414
2	24	519	-	519	2	24	319	20	339
3	24	826	125	951	3	26	614	129	743
合計	197	8,094	1,685	9,779	合計	302	7,956	2,960	10,916

もも多く見受けられる。

(b) 平成24年度

平成24年度には、新たに低融合金を使用した鋳造体験の「和同開珎づくり」のメニューが加わり、個人・団体それぞれで体験できるようになった。

多くのお客様に楽しんでいただいている一方、なぜ「和同開珎づくり」がメニューにあるのか(市内の的場遺跡や緒立遺跡で出土している。)といった文化財センター側の意図を伝えていかなければならない。

また、団体向けの火起こし体験や土器づくりについても個人で体験できるようにしてほしいという要望がよせられている。

(4) 入館者数

当センターの入館者数は表15のとおりである。入館者の年齢別は統計をとっていないが、中年層から高齢者層が多い。また、体験メニューを目的とする子ども連れの若い世代もいる。

入館者のアンケートからは、「新潟市にこんなに遺跡があるなんて驚いた」、「体験ができて面白い」といった意見がある一方、「立派な施設なのにPRが足りない。もったいない。」「表示看板が少なく、道に迷った。」等のご指摘をいただいた。

平成23年度 開館初年度ということもあり、個人が多かった。

平成24年度 個人の来館者が減少し、一方で、団体は増加している。

平成25年3月末までの開館からの累計入館者数は20,695人である。

(5) 団体見学・施設見学

小学校や子ども会などの子どもが主体の団体では、見学だけではなく体験活動を組み込むことが多い。特に小学校では社会科の授業として4月・5月には6学年の歴

表15 平成23年度団体利用・行政視察一覧

団体利用(学校以外)			
年月日	団体名	利用内容	人数
2011/8/23(火)	動く市政教室 【個人参加 埋蔵文化財と岩室】	見学・拓本	33
2011/8/26(金)	山形大学田中研究室	見学・火起こし	13
2011/8/28(日)	新潟交通の旅「くれよん」	見学	30
2011/8/31(水)	動く市政教室 【個人参加 埋蔵文化財と岩室】	見学・拓本	33
2011/9/1(木)	動く市政教室 【個人参加 埋蔵文化財と岩室】	見学・拓本	33
2011/9/6(火)	動く市政教室 【個人参加 埋蔵文化財と岩室】	見学・拓本	33
2011/9/11(日)	立仏連合自治会	見学	82
2011/9/13(火)	西区連合商工会女性部	見学	37
2011/9/15(木)	新潟市坂井輪地区公民館	見学	50
2011/9/21(水)	新潟市教育委員会横越地区公民館	見学	30
2011/9/27(火)	新潟市消費者協会白根支部	見学	20
2011/9/29(木)	西川地区老人クラブ協議会	見学	33
2011/9/30(金)	生涯学習ボランティア「ひだまり」	見学	40
2011/9/30(金)	西区役所健康福祉課	見学	36
2011/10/4(火)	ケアハウス有明	見学・拓本・土偶	10
2011/10/4(火)	介護老人保健施設 回生園	見学・拓本	19
2011/10/5(水)	黒埼商工会	見学	22
2011/10/5(水)	介護老人保健施設 回生園	見学・勾玉	16
2011/10/6(木)	介護老人保健施設 回生園	見学・土偶	11
2011/10/12(水)	燕市吉田郷土史研究会	見学	10
2011/10/12(水)	みんなの茶の間 上山	見学・拓本・勾玉・土偶	20
2011/10/12(水)	動く市政教室【二葉町3丁目自治会】	見学・拓本	30
2011/10/19(水)	新潟市湯東地区公民館 青空学級	見学・拓本	14
2011/10/21(金)	活き活き再彩Club(坂井輪公民館内)	見学・火起こし	25
2011/10/26(水)	NHK文化センター新潟教室	見学	15
2011/11/4(金)	動く市政教室【五十嵐二の町自治会】	見学	25
2011/11/9(水)	西区役所健康福祉課	見学	20
2011/11/17(木)	坂井輪地区公民館 利用団体連絡協議会	見学	40
2011/11/18(金)	動く市政教室 【内野地区自治連絡協議会】	見学	30
2011/11/20(日)	ボーイスカウト新潟第7団 カブ・ビーバー隊	見学・火起こし・土偶	13
2011/11/22(火)	根岸地区社会福祉協議会	見学	15
2011/11/23(水)	岩室民俗史料館友の会	見学	27
2011/11/25(金)	亀田西小学校 コミュニティー協議会	見学・火起こし	28
2011/12/7(水)	西区役所健康福祉課	見学	32
2012/1/21(土)	熊倉一義(旧自治会長)	見学	10
2012/3/13(火)	動く市政教室 【新潟エネルギー市民懇談会】	見学	30
2012/3/14(水)	西区役所健康福祉課	見学	40
2012/3/15(木)	長湯新観寿会	見学	23
2012/3/16(金)	(公財)新潟市国際交流協会	見学・火起こし	10
2012/3/22(木)	動く市政教室 【みのりクラブ】(中央区)	見学	22
合計			1,060
団体利用(学校)			
年月日	団体名	利用内容	人数
2011/9/2(金)	黒埼南小学校	見学・火起こし・土偶	43
2011/9/16(金)	立仏小学校	見学・火起こし・土偶	80
2011/9/27(火)	黒崎中学校	調べ学習	10
2011/9/29(木)	坂井輪小学校	見学・火起こし・土偶	127
2011/10/7(金)	桜ヶ丘小学校	見学・火起こし・土偶	79
2011/10/19(水)	黒埼南小学校	見学	49
2011/11/10(木)	坂井東小学校	見学・勾玉	76
	茨曾根小学校	見学	
2011/12/20(火)	庄瀬小学校	火起こし	39
	新飯田小学校	土偶	
2012/1/26(木)	黒埼南小学校	見学・民具	24
合計			527
行政視察			
年月日	団体名	利用内容	人数
2011/8/3(水)	青少年文化財講座	施設見学	9
2011/8/6(土)	下越社会科サークル	施設見学	9
2011/8/24(水)	黒崎教育協議会・ 総合的な学習推進委員会	施設見学	13
2011/8/24(水)	京都府久世郡久御山町議会	施設見学	9
2011/9/2(金)	西区校長会	施設見学	25
2011/9/9(金)	埋蔵文化財担当職員等講習会	施設見学	
2011/10/7(金)	湯東中学校社会科教員	施設見学	3
2011/10/13(木)	内野コミュニティ協議会	施設見学	30
2011/11/30(水)	小千谷市教育委員会	施設見学	6
合計			104

表16 平成24年度団体利用・行政視察一覧

団体利用（学校以外）

年月日	団体名	利用内容	人数
2012/4/8 (日)	新潟歩く会	見学	85
2012/4/12 (木)	動く市政教室 [新潟市視覚障害者福祉協会女性部]	見学・拓本	40
2012/4/13 (金)	西区総務課	見学	30
2012/4/25 (水)	西区総務課	見学	30
2012/4/26 (木)	動く市政教室「寺尾中央公園自治会」	見学	41
2012/4/27 (金)	小針小学校	見学・火起こし・土偶	142
2012/5/9 (木)	動く市政教室「深雪2012」(西区)	見学	26
2012/5/10 (水)	亀田東小学校区コミュニティ協議会	見学	24
2012/5/10 (木)	西区役所健康福祉課	見学	30
2012/5/12 (土)	剣野ふるさと学校	見学	34
2012/5/16 (水)	中野山中央やまびこ会	見学・火起こし	25
2012/5/22 (火)	動く市政教室「東青山親和会」	見学	21
2012/5/22 (火)	横越かたりベサークル	見学	10
2012/5/23 (水)	動く市政教室「物見山北新会」	見学	36
2012/6/8 (金)	ビーチサロン長場	見学	21
2012/6/9 (土)	障害者団体「この指とまれの会」	見学	14
2012/6/12 (火)	動く市政教室「個人参加 遺跡を学ぼう」	見学・バックヤード見学	30
2012/6/14 (木)	動く市政教室「個人参加 遺跡を学ぼう」	見学・バックヤード見学	30
2012/6/15 (金)	西区役所健康福祉課	見学	30
2012/6/21 (木)	動く市政教室「輪之内自治会」	見学	26
2012/6/27 (水)	動く市政教室 [小須戸小学校区コミュニティ協議会]	見学	31
2012/6/30 (土)	新潟県高齢者大学教養講座2Aクラス 史跡同好会	見学・勾玉	12
2012/7/1 (日)	女池西6区子供会	見学・勾玉	29
2012/7/3 (火)	西区役所健康福祉課	見学	30
2012/7/4 (水)	動く市政教室「東区山木戸14区自治会」	見学	25
2012/7/5 (木)	動く市政教室「牡丹山第一睦会」	見学	31
2012/7/10 (火)	動く市政教室「大形地区コミュニティ協議会」	見学	36
2012/7/22 (日)	ボーイスカウト新潟第5団	見学・勾玉・和同開珎	18
2012/7/24 (火)	浦木さわやか会	見学	24
2012/7/24 (火)	中浦みどり森林組合	見学・火起こし	15
2012/7/28 (土)	上大月老人クラブ	見学	14
2012/7/29 (日)	下組子供会	見学・勾玉	30
2012/7/29 (日)	木津子供会	見学・勾玉	50
2012/7/29 (日)	7・8番町子供会	見学・火起こし	16
2012/8/3 (金)	坂井輪中学校区青少年育成協議会	見学・勾玉・土偶	50
2012/8/5 (日)	寺尾山の手自治会	見学・勾玉・土偶	8
2012/8/8 (水)	動く市政教室「西区 青山三区子供会」	見学・拓本	38
2012/8/9 (木)	動く市政教室 「東区 アパガーデンコート東新潟子供会」	見学・勾玉(速)	32
2012/8/17 (金)	動く市政教室「西区 いきいき男のセミナー」	見学・火起こし・拓本	31
2012/8/21 (火)	白根地区公民館	見学・和同開珎	25
2012/8/28 (火)	スポーツガーデン 友の会 プラス	見学・火起こし・勾玉・土偶	11
2012/8/30 (木)	小さな美術館 季(とき)	見学・火起こし・拓本・勾玉・土偶	15
2012/9/2 (日)	にいがた観光ツアーバス めぐるん号	見学	16
2012/9/4 (火)	動く市政教室「個人参加 発掘現場を見てみよう」	見学・民具講座	17
2012/9/4 (火)	早通シニアクラブ	見学	17
2012/9/6 (木)	動く市政教室「個人参加 発掘現場を見てみよう」	見学・民具講座	16
2012/9/12 (水)	道上ヶ丘自治会	見学	17
2012/9/13 (木)	動く市政教室「にいつ21」	見学	27
2012/9/20 (木)	坂井中団地シニアクラブ	見学	27
2012/9/21 (金)	ふたかみ史遊会	見学	28
2012/9/29 (土)	ガールスカウト新潟県第10団	見学・勾玉・土偶	13
2012/10/2 (火)	西区役所健康福祉課	見学	28
2012/10/9 (火)	西区役所健康福祉課	見学	25
2012/10/12 (金)	株式会社自遊人	武田家利用	5
2012/10/16 (火)	あかし会	見学	35
2012/10/16 (火)	動く市政教室 「中央区 豊照地区連合町内 婦人部」	見学	30
2012/10/17 (水)	早通地域コミュニティ委員会	見学	20
2012/10/18 (木)	早通地域コミュニティ委員会	見学	20
2012/10/20 (土)	小瀬小学校学年行事	見学・火起こし・勾玉・土偶	23
2012/10/21 (日)	ぶっく・スワンボランティア 有志の会	見学	14
2012/10/30 (火)	満日コミュニティ協議会	見学	28
2012/11/7 (水)	あいづ商工会	見学	17
2012/11/9 (金)	西区役所健康福祉課	見学	32
2012/11/9 (金)	動く市政教室「東区 石山よかクラブ2」	見学	26
2012/11/10 (土)	湯東南小学校 学年行事	見学・火起こし・勾玉・土偶	34
2012/11/11 (日)	大安場史跡公園ボランティア	見学	26
2012/11/18 (日)	信濃川火焔街道連携協議会	見学	25
2012/12/5 (水)	地域のお茶の間サロン 貝柄サロン	見学	17
2012/12/26 (水)	NHK文化センター教養講座	見学	13
2013/1/27 (日)	ボーイスカウト新潟第7団 カブ・ビーバー隊	見学・火起こし・土偶・和同開珎	13
2013/3/13 (水)	西区役所健康福祉課	見学	25
2013/3/15 (金)	豊栄統計調査員協議会	見学	14
2013/3/16 (土)	根岸ひまわりクラブ	見学・火起こし・勾玉	58
2013/3/23 (土)	動く市政教室(市企画 個人参加 小学生以上)	見学	16
合計			2,018

団体利用（学校）

年月日	団体名	利用内容	人数
2012/4/11 (水)	笠木小学校	見学・勾玉	5
2012/4/18 (水)	大鷲小学校	見学・火起こし・土偶	32
2012/4/24 (火)	藤見中学校	総合学習	5
2012/4/25 (水)	浜浦小学校	見学・火起こし・土偶	68
2012/4/26 (木)	根岸小学校	見学・火起こし・土偶	33
2012/4/26 (木)	黒崎南小学校	(※避難訓練)	185
2012/4/27 (金)	小針小学校	見学・火起こし・土偶	142
2012/5/25 (金)	湯東東小学校	見学・火起こし	24
2012/5/25 (金)	上山中学校	見学・土偶	5
2012/5/31 (木)	下山中学校	見学	15
2012/9/27 (木)	笹口小学校	見学・拓本・勾玉	53
2012/9/28 (金)	坂井輪小学校	見学・火起こし・土偶	140
2012/10/10 (水)	黒崎中学校	地域体験学習	25
2012/10/11 (木)	湯東中学校	見学	68
2012/10/12 (金)	濁川小学校	見学・勾玉	74
2012/10/12 (金)	松野尾小学校	見学・拓本・勾玉 和同開珎	14
2012/11/20 (火)	坂井東小学校	見学・火起こし・勾玉	78
合計			966

行政視察・研究会

年月日	団体名	利用内容	人数
2012/7/3 (火)	魚沼市文化財保護審議会	施設見学	9
2012/7/20 (金)	指定都市文化財行政主管者協議会	施設見学	30
2012/7/24 (火)	西蒲区自治協議会研修視察	施設見学	35
2012/8/24 (金)	古代史サマーセミナー	木簡調査	30
2012/9/20 (木)	西蒲区校長会	施設見学	19
2012/12/14 (金)	北区小学校長会	施設見学	13
2013/2/17 (日)	北海道・東北保存科学研究会	施設見学	20
2013/3/19 (火)	聖籠町教育委員会	施設見学	10
2013/3/24 (日)	国立歴史民俗博物館研究グループ	近世新潟町跡 出土遺物調査	6
合計			172



子供に大人気の土器パズル



鍛造体験 和同開珎づくり

表17 平成23年度資料利用対応件数一覧

考古資料

特別利用許可

件数	申請者	資料	点数	来館日	備考
1	国立歴史民俗博物館・共同研究「中世の技術と職人に関する総合的研究」	浦廻遺跡 出土資料 馬場屋敷遺跡 出土資料	39箱 101箱	平成23年 8月 9日	中世の生産技術等に関する調査・研究
2	北陸中世考古学研究会	馬場屋敷遺跡 出土資料	115箱	平成23年 8月14日	中世の生産技術等に関する調査・研究
3	個人	上浦遺跡 土器	3	平成23年 9月29日	古代の土器に関する調査・研究
4	西相模考古学研究会	正尺C遺跡 土器 西郷遺跡 土器・石器	102 6	平成23年10月 2日	弥生時代～古墳時代前期における日本海側の様相を関東の様相と比較検討
5	個人	馬場屋敷遺跡 鋸	1	平成23年10月 8日	鋸の研究
6	個人	新谷遺跡 土器 笹山前遺跡 土器 南赤坂遺跡 土器	28 2 15	平成23年11月28日	卒論執筆
7	新潟県立歴史博物館	大沢遺跡 土器	21	平成24年 2月22日	個別研究「縄文土器からみた新潟県における前期と中期の境界」に伴う資料調査
8	新潟県の近世陶磁器を見る会	江内遺跡 土器・陶磁器 近世新潟町跡(広小路堀地点) 陶磁器・土製品・石製品・木製品 小丸山遺跡 土器・陶磁器	365 166 19	平成24年 3月24日	遺跡出土近世陶磁器調査
9	個人	緒立遺跡 出土資料	—	平成24年 3月24日	種実圧痕の探索とレプリカ法調査

貸出許可

件数	申請者	資料	点数	貸出期間	備考
1	医療社団法人 幸人会 理事長 阿達敏幸	諏訪畑遺跡 土器 展示ケース	5 1	平成23年4月1日～ 平成24年3月31日	来訪者への鑑費用
2	新潟市北区郷土博物館 館長 宮崎芳春	鳥屋遺跡 土製品・石器 鳥屋遺跡 土器レプリカ	20 12	平成23年4月20日～ 平成24年3月31日	企画展「北区のお宝ものがたり」にて展示 常設展示
3	十日町市博物館 館長 平野 勝	鳥屋遺跡 土製垂飾	2	平成23年7月4日～ 9月27日	夏季特別展「縄文のKAZARI - 顔を飾る縄文人 -」にて展示
4	新潟市歴史博物館 館長 小林昌二	味方排水機場遺跡ほか 縄文土器ほか	15	平成23年7月20日～ 9月17日	「発掘された日本列島2011」地域展「海拔0m以下で発見される遺跡」にて展示
5	新潟市西川地区公民館 館長 布施正男	中才遺跡 須恵器横瓶	1	平成23年7月29日～ 平成24年3月31日	西川学習館にて展示
6	新潟市中之口先人館 館長 南波友栄	茶院A遺跡 土師器ほか	8	平成23年7月29日～ 平成24年3月31日	中之口資料館(澤将監の館内)にて展示
7	新潟市歴史博物館 館長 小林昌二	笹山前遺跡 土器ほか 的場遺跡 木製品レプリカ	84 54	平成23年7月29日～ 平成24年3月31日	常設展示
8	因幡万葉歴史館 館長 北川則昭	大沢谷内遺跡 九九木簡赤外線写真	1	平成23年8月9日～ 11月18日	企画展「律令制と因幡国(仮)」にて展示
9	新潟県立歴史博物館 館長 中島太郎	大沢遺跡 土器・土偶	12	平成23年8月26日～ 12月2日	秋季企画展「にいがたの土偶 - 発掘された新潟の歴史2011 -」にて展示
10	新潟県立歴史博物館 館長 中島太郎	的場遺跡 和同開珎出土状況写真	1	平成23年10月11日～ 11月11日	冬季企画展「紙のおかね、金のおかね」にて展示
11	胎内市教育委員会 教育長 小野達也	馬場屋敷遺跡 陶磁器ほか	90	平成23年10月11日～ 11月29日	胎内市で整備中の坊城館跡に関連する基礎資料として使用
12	新潟県立歴史博物館 館長 中島太郎	大沢遺跡 土器・土偶	12	平成23年12月3日～ 平成24年1月25日	秋季企画展「にいがたの土偶 - 発掘された新潟の歴史2012 -」展示にかかる調査
13	新潟県立歴史博物館 館長 中島太郎	的場遺跡 和同開珎	20	平成23年12月14日～ 平成24年3月15日	冬季企画展「紙のおかね、金のおかね」にて展示
14	新発田市教育委員会 教育長 塚野純一	草水町2丁目窯跡 須恵器	20	平成24年1月13日～ 31日	新発田市丸山A遺跡出土須恵器との胎土比較

分析資料提供

件数	申込者	資料	点数	申込日	備考
1	新潟県立歴史博物館 館長 中島太郎	干納遺跡出土淡水魚骨片(イトヨ・サケ)	—	平成23年4月21日	炭素素素同位体比の測定

掲載許可

件数	申請者	資料	点数	許可日	備考
1	東蒲原郡史編さん委員会 会長 神田敏郎	「駒首湯遺跡第3・4次調査」掲載写真	2	平成24年3月26日～ 平成25年3月31日	『東蒲原郡史通史編1』掲載

民俗資料

貸出許可

件数	申請者	資料	点数	貸出期間	備考
1	新潟市歴史博物館 館長 小林昌二	民俗資料 サキオリマエカケほか	7	平成23年9月6日～平 成24年1月10日	企画展「第8回むかしのくらし展 今日は何着よう? ~着るものいまむかし~」にて展示

史で、1月は3学年の昔のくらしで利用する傾向にある。また、地方自治体や研究団体の視察も多くあった。

平成23年度 近隣の小学校を中心に11校の利用があった。また「動く市政教室」^注の利用が多かった。

平成24年度 小学校・中学校の利用は17校があり、歴史を学ぶ4月・5月に10校、9月から11月に7校が利用した。(今井さやか)

(6) 資料利用

(a) 手続きに関する条例・規則

特別利用許可 当センター内で考古資料の熟覧・実測・撮影等を行う場合：『新潟市文化財センター条例』

及び『新潟市長から委任を受けた新潟市文化財センター管理に関する規則』により許可申請書を教育委員会あてに提出する。

貸出許可 考古資料の寄託・借用・貸出等をする場合：『新潟市文化財センター考古資料の寄託、借用及び貸出に関する規則』により許可申請書等を教育委員会に提出する。

寄附申込 考古資料の寄附申し込みをする場合：『新潟市物品管理規則』により物品寄附申込書を市長あてに提出する。

民俗資料 民俗資料の利用・貸出をする場合：『新潟市

表18 平成24年度資料対応件数一覧

考古資料

特別利用許可

件数	申請者	資料	点数	来館日	備考
1	十日町市博物館 館長 平野 勝	上ノ原遺跡 壺形土器（有孔） 御井戸遺跡 香炉形土器	1 1	平成24年5月10日	借用事前調査
2	個人	南赤坂遺跡 土器	45	平成24年6月19日	研究
3	第40回古代史サマーセミナー 新潟セミナー 実行委員長 中林隆之	大沢谷内遺跡 木簡 駒首湯遺跡 墨書土器・木簡 的場遺跡 墨書土器	1 18 30	平成24年8月26日	古代史サマーセミナー見学
4	福島市教育委員会 教育長 佐藤俊市郎	大沢谷内遺跡 土器・石器・アスファルト	6箱	平成24年8月27日	借用事前調査
5	個人	養海山遺跡 土器 西郷遺跡 土器	2 118	平成24年8月17日	研究
6	個人	法花鳥屋遺跡 土器	1	平成24年9月23日	研究
7	個人	正尺C遺跡 土器 緒立B遺跡 土器	22 17	平成24年10月5日	研究
8	新潟市立潟東中学校 校長 小島成生	林付遺跡 土器・石製品	11	平成24年10月11日	1学年授業「潟東の遺跡」
9	新潟市立潟東南小学校5年 代表保護者	林付遺跡 土器・石製品	11	平成24年11月10日	学習
10	個人	南赤坂遺跡 石器	45	平成24年12月21日	研究・論文執筆

貸出許可

件数	申請者	資料	点数	貸出期間	備考
1	新潟市歴史博物館 館長 小林昌二	笹山前遺跡 土器ほか 的場遺跡 レプリカ	84 54	平成24年4月1日～ 平成25年3月31日	常設展示
2	医療社団法人 幸人会 理事長 阿達敏幸	諏訪畑遺跡 土器 展示ケース	5 1	平成24年4月1日～ 平成25年3月31日	来訪者への鑑費用
3	新潟市南区役所 味方出張所 所長 山田 裕	味方首根下遺跡 土師器	8	平成24年4月1日～ 平成25年3月31日	味方出張所にて展示
4	新潟市西蒲区地域課 課長 塚本裕二	茶院A遺跡 土師器ほか	8	平成24年4月1日～ 平成25年3月31日	中之口資料館（澤特監の館内）にて展示
5	新潟市西川地区公民館 館長 布施正男	中才遺跡 須恵器横瓶	1	平成24年4月1日～ 平成25年3月31日	西川学習館にて展示
6	新潟市北区郷土博物館 館長 宮崎芳春	鳥屋遺跡 土製品・石器 鳥屋遺跡 土器レプリカ	23 12	平成24年4月1日～ 平成25年3月31日	常設展示
7	新潟市歴史博物館 館長 小林昌二	東開遺跡 炭化米ほか	55	平成24年6月28日～ 9月12日	企画展「開墾の技術史」展示
8	十日町市博物館 館長 平野 勝	上ノ原遺跡 壺形土器 御井戸遺跡 香炉形土器	1 1	平成24年9月5日～ 11月13日	秋季特別展「異形の縄文土器」展示
9	新潟市歴史博物館 館長 小林昌二	的場遺跡 土錘・石錘	48	平成24年7月3日～ 平成25年3月31日	常設展示
10	新潟市歴史博物館 館長 小林昌二	近世新潟町跡 陶磁器・泥面子	3	平成24年7月3日～ 平成25年3月31日	常設展示
11	津南町教育委員会 教育長 桑原 正	上ノ原遺跡 三十稲場式土器	1	平成24年8月31日～ 11月20日	秋季企画展「三十稲場式土器文化の世界」展示
12	福島市教育委員会 教育長 佐藤俊市郎	「大沢谷内遺跡Ⅱ」掲載 アスファルト塊ほか	9	平成24年10月1日～ 12月10日	特別展「縄文時代の物流～物の移動から見える縄文社会～」展示
13	新潟市江南区郷土博物館 市長 篠田 昭	砂崩遺跡 土器ほか	51	平成24年10月1日～ 平成25年3月31日	常設展示

掲載許可

件数	申請者	資料	点数	許可日	備考
1	新潟市歴史博物館 館長 小林昌二	「金津丘陵製鉄遺跡群Ⅱ」掲載写真ほか	34	平成24年6月8日	企画展「開墾の技術史」展示パネル・図録掲載
2	新潟県教育庁文化行政課 課長 本田雄二	大森遺跡 製塩遺構写真、製塩土器写真	2	平成24年7月2日	越後国域確定1300年記念企画展「遺跡が語る古代のいがた～越から越後・佐渡へ～」パンフレット掲載
3	国土交通省北陸地方整備局企画部 企画部長 大寺伸幸	大沢谷内遺跡 噴砂痕写真	1	平成24年7月9日	「新潟県内液状化しやすさマップ」掲載
4	福島市教育委員会 教育長 佐藤俊市郎	「大沢谷内遺跡Ⅱ」掲載写真	42	平成24年9月25日	特別展「縄文時代の物流～物の移動から見える縄文社会～」展示パネル・図録掲載
5	福島市教育委員会 教育長 佐藤俊市郎	「大沢谷内遺跡Ⅱ」掲載写真	7	平成24年11月12日	公開講座当日配布資料掲載
6	共同通信社大阪支社社会部 社会部長 山本裕之	釈迦堂遺跡 液状化跡の写真・遺跡全景航空写真 、近世新潟町遺跡 液状化跡の写真	3	平成24年11月26日	歴史地震をテーマにした連載企画「遺跡からの警告」掲載
7	株式会社 新泉社 代表取締役 石垣雅哉	御井戸遺跡 朱漆塗り水差し容器出土状況写真 片口容器と水差し形出土状況写真	2	平成24年11月26日	シリーズ「遺跡を学ぶ」別冊03「縄文時代ガイドブック」掲載
8	新潟市文化観光・スポーツ部歴史文化課 （信濃川火焰街道連携協議会事務局） 課長 倉地一則	「的場遺跡」掲載写真	2	平成25年1月25日	資料集「フォーラム火焰街道往来2013水辺と遺跡の考古学～信濃川と欧州の様相～」掲載
9	鳥取県立むきばんだ史跡公園 所長 中原 斉	「国指定史跡 古津八幡山遺跡 歴史の広場」 パンフレット内の遺跡地図	1	平成25年2月4日	弥生文化シンポジウム予稿集「弥生文化シンポジウム とっとり倭人伝 東・西日本からみた山陰の弥生社会」掲載
10	新潟日報社読者ふれあいセンター センター長 星野純朗	的場遺跡 和同開珎写真	1	平成25年2月12日	子ども新聞掲載

寄附申込

件数	申込者	資料	点数	申込日	備考
1	個人	珠洲焼播鉢	2	平成24年6月5日	弥彦山沖海揚がり

民俗資料

貸出許可

件数	申請者	資料	点数	貸出期間	備考
1	新潟市歴史博物館 館長 小林昌二	民具資料 ヤチチリガマほか	12	平成24年6月15日～ 9月12日	企画展「開墾の技術史」展示

物品管理規則」により許可申請書を市長あてに提出する。

なお、分析資料提供・掲載許可手続きは適用規則がないため、任意書式提出を依頼している。

(b) 利用件数

特別利用許可 考古資料に関して熟覧・実測・撮影の利用件数は平成23年度9件、24年度10件である。

貸出許可 考古資料と民具資料の貸出許可は、博物館等での常設展示に伴う年度単位の貸出と企画展等の短期間の貸出がある。前者では次年度も引き続き貸出を希望する場合は年度ごとに手続きを行っている。公民館等では地域の歴史に親しみを感じてもらおう観点からその地域の遺跡から出土した遺物の貸出を行っている。資料の貸

表19 平成24年度図書室・コピー利用者数

月	図書室利用 (人)	コピー利用 (人)
4月	—	—
5月	—	—
6月	16	3
7月	20	1
8月	4	1
9月	12	2
10月	26	0
11月	16	0
12月	12	4
1月	10	1
2月	8	1
3月	7	1
合計	131	14

出期間等は『新潟市文化財センター考古資料の寄託、借用及び貸出に関する規則』に規定されている。

平成23年度は、常設展示に伴う長期貸出5件、短期貸出9件である。

平成24年は、常設展示に伴う長期貸出9件、短期貸出4件である。

分析資料提供 平成23年度に1件である。非破壊分析を原則とするが、破壊分析の場合には微量であること、速やかに分析結果を公表すること、分析内容が新潟市の埋蔵文化財行政に貢献があること等を勘案し個別に判断している。

掲載許可 文化財センターが保管する写真や報告書等掲載資料の提供を希望する場合や申請者が貸出を受けて撮影したものを印刷物等で使用する場合がある。利用件数は平成23年度1件、24年度は10件で、内2件は平成23年3月11日に発生した東日本大震災を契機に遺跡で見つかる液状化痕跡に関する写真提供の申請であった。

寄附申込 平成24年度に1件である。VI3で報告している珠洲焼の一部について寄附いただいた。

(相澤裕子・渡邊朋和)

(7) 図書の収蔵と閲覧

(a) 収蔵

図書室の面積は89.33㎡で、室内には単式固定5段8連1台、複式移動7段7連5台、複式移動7段8連6台の棚が列設置されている。棚段数は総数で1,202段、約5万冊の図書の収蔵が可能である。なお、分類整理作業が必要な図書や登録未了図書に関しては、隣接する埋蔵文化財収蔵庫の棚に仮置きをし、登録が終わったものから順次配架を行っている。

文化財センター開館以前は全国の自治体から寄贈を受けた発掘調査報告書が主なもので、一般図書や定期刊行物(雑誌等)はほとんどなかった。これは、図書の購入を行わず、寄贈図書が大半であったことによる。

現在は、新潟市の発掘調査報告書、全国の自治体から寄贈された発掘調査報告書の他、平成23年度の文化財センター開館に前後して個人から寄贈を受けた図書があり、収蔵図書が飛躍的に増加してきている。新潟大学名誉教授甘粕健氏・奈良大学教授坂井秀弥氏・新潟県考古学会前会長藤塚明氏等から寄贈された報告書・一般図書・定期刊行物等である。甘粕氏からは、生前の平成21

年度・22年度にはご本人から、ご逝去後の平成24年度には奥様からご寄贈をいただいた。甘粕氏が所蔵されていた考古学関係図書をほぼ全てを文化財センターにご寄贈いただいたので、氏の研究されていた古墳時代関係の図書は大変に充実したものとなった。この他に、文化財センター開館後は必要な考古学・民俗学・歴史学関係の図書を購入している。

図書の収蔵状況は、旧市町村で所蔵していた発掘調査報告書が合併に伴い集められた結果、新潟県内の発掘調査報告書には複本が多数生じるようになった。複本があり利用頻度の高い報告書は、文化財センター図書室の他、調査研究室と保存処理室、そして秋葉区にある弥生の丘展示館に置いて利用している。

書誌情報の入力作業は、平成21年度・22年度に緊急雇用対策事業として業者に委託して行い、平成23年度からは司書(臨時職員)2～3名を雇用して、入力作業を継続して行っている。なお、書誌情報の入力は平成21年度に構築した埋蔵文化財情報管理システムを利用している。入力作業と併せ、図書の管理のために寄贈者印・所蔵印を押捺し、3段ラベル・バーコードを貼る作業を行っている。平成25年12月までの入力数は約37,000冊である。

(b) 利用状況

図書室では、2名分の閲覧スペースがある。大まかに配架作業が終了した平成24年6月から閲覧開始するとともに、著作権法の範囲内でコピーサービス(有料)も開始した。図書室の利用人数とコピーサービス利用人数は表19のとおりである。

なお、収蔵図書は、発掘調査報告書等の発行部数の少ない稀覯本がほとんどのため、館外貸し出しは行っていない。

(渡邊朋和)

注 市で市の施設等を見学するコースを企画し、個人で参加できるものと、団体(20人以上)の申し込みによるものを実施している。個人・団体とも、広聴相談課の職員が添乗し案内する。



図書室

8 保存処理

平成15年度から市内出土の木製品を糖アルコール法で保存のための理化学的処置を行ってきた。平成23年度の文化財センター開館に伴い新たに「木製品保存処理室」と「金属製品保存処理室」を設け、大形の保存処理機器を導入し、年間を通して保存処理を計画的に行うことが可能になった。平成23年度開館時に購入・設置した設備・機器は表20のとおりである。

(1) 木製品の保存処理について

処理の方針 平成23年度には2遺跡760点、平成24年度には3遺跡908点の木製品の保存処理を行った（表21）。処理方法は資料の形態・材質・劣化度を考慮しPEG（ポリエチレングリコール）含浸法を中心に行っている。PEGに向かない漆器やセンターの含浸槽に入らない大きな遺物については、適宜外部委託を行っている。

処理工程 各処理法による作業は、遺物の洗浄、脱鉄処理、処理前の写真撮影、処理前の重量等の計測といった共通作業以降、以下のような工程で行われている。

PEG含浸法

①含浸 低濃度のPEG水溶液（重量濃度20%）から徐々に濃度を上げ、最終的に100% PEG溶液に含浸する。

②引きあげ 溶液から資料を取り出し、温水で表面を洗浄し、常温で固化させる。

③接着・復元 破片の接着や亀裂・欠損部分の復元を行う。接着剤はシアノアクリレート系及びエポキシ系接着剤を用いる。また、補てんはエポキシ系樹脂を使用する。

④調査・記録 処理中に変化した箇所はないか点検し、処理後の記録をとり、写真撮影なども併せて行う。

その他の処理法 自然乾燥している資料に対して、非水溶性のアクリル樹脂（パラロイドB72）の塗布を行い強化した。

なお、すべての作業経過を保存処理カードに記載し、処理後の資料は温湿度管理された特別収蔵庫において保管している。

処理の概要 平成23年度は、PEG含浸槽を使用したはじめての保存処理だったため、比較的変形の起きにくい針葉樹材が多い山木戸遺跡（1994004）の出土品を保存処理することとした。また、保管中に自然乾燥してしまった和納館跡（1995004）については、クリーニングの後、非水溶性アクリル樹脂（パラロイドB72）を塗布し、表面の剥離を防ぐ処置を行った。

平成24年度は、発掘から20年以上が経過し劣化の著しい緒立遺跡（1989010）と的場遺跡（1989007）、山木戸遺跡（1994004）出土木製品の保存処理をPEG含浸法で

表20 保存処理設備・機器一覧

分類	名称	用途	メーカー	型番	購入年度
事前調査	実体顕微鏡（標準架台）2台	微小部分の観察	オリンパス	SZ-61	平成21年度
	実体顕微鏡（テーブル架台）	立体遺物の観察	オリンパス	SZ-61	平成21年度
	生物顕微鏡	樹種プレパレードの観察	オリンパス	BX-41	平成21年度
	工業顕微鏡	岩石の観察	オリンパス	BX-51	平成21年度
	顕微鏡撮影システム	顕微鏡画像の撮影	オリンパス	DP25	平成21年度
	電子天秤（小）	薬剤の計量	A&D	GX200	平成21年度
	電子天秤（中）	保存処理遺物の計量	A&D	GX32-K	平成21年度
	クレーンスケール	大形遺物の計量	A&D	FJ-K200G	平成21年度
	防水デジタルカメラ	保存処理前後の記録用	リコー	G600	平成21年度
	X線分析装置	鉄製品の事前調査	ソフテック	M-150特型	平成22年度
金属製品	シーラー	金属製品の封入	富士インパルス	F600	平成9年度
	送風定温乾燥器	水分・樹脂の乾燥	アズワン	DO-600FA	平成16年度
	真空デシケーター	金属製品の減圧含浸	アズワン	DVS310	平成21年度
	真空ポンプ	金属製品の減圧含浸	ULVAC	DTC-22	平成21年度
	イオンメーター	脱塩処理の評価	TOADKK	IM32P	平成21年度
	研磨機（モニター）2台	鉄器のさび落とし用	ミニモ	C101	平成21年度
	オートドライデシケーター	金属製品の仮保管用	アズワン	ND2S	平成21年度
	超音波洗浄機	金属製品洗浄用	アズワン	VS-100	平成21年度
	ドラフトチャンバー	有機溶剤作業	ダルトン	LDL-180LU	平成22年度
	脱塩処理装置	金属製品の脱塩処理	平山製作所	DSM-140	平成22年度
	鉄器樹脂減圧含浸装置	金属製品の減圧含浸	関西保存科学工業	IF-50	平成22年度
	ブラスター	鉄器のさび落とし用	モリタ	HB1-2P	平成22年度
	前牽引き違い保管庫	薬品や器具の保管	アズワン	N-180	平成22年度
	実験デスク 2台	作業用デスク	オカムラ	リフォルマ	平成22年度
	ステンレス作業台 3台	鉄製品用作業台	タニコー		平成22年度
ポケット線量計	放射線測定	アロカ	PDM117	平成22年度	
木製品	恒温器	小型木器の樹脂含浸用	ヤマト	DKN601	平成15年度
	赤外線水分計	溶液濃度の測定	KETT	FD-600	平成15年度
	スピードドライ	糖アルコールの結晶化	アズワン	SD-50N	平成15年度
	ドライラック	糖アルコールの結晶化	ヤマト		平成16年度
	高温ドライヤー	表面に噴き出た糖を溶かす		HAKKO851	平成16年度
	PEG含浸槽	2mまでの木製品PEG含浸	ダルトン	DAP-200	平成22年度
	赤外線映像観察装置	木製品の患部調査	浜松ホトニクス	C8000-10SET	平成22年度
	業務用冷蔵庫	脆弱木製品の保管	大和冷機	01CD-NP-EC	平成22年度
	ステンレス作業台	木製品用作業台		特注	平成22年度
	保管水槽用ステンレスコゴ	木製品保管用		特注	平成22年度



木製品保存処理室



木製品保存処理作業風景

表21 平成23年度・24年度木製品、鉄製品、銅・青銅製品保存処理一覧

遺跡名	調査番号	材質	処理方法	点数(点)	処理年度
山木戸遺跡	1994004	木製品	PEG	577	平成23年度
和納館跡	1995004	木製品	E72塗布	183	平成23年度
合計				760	
的場遺跡	1989007	木製品	PEG	304	平成24年度
緒立C遺跡	1989010	木製品	PEG	537	平成24年度
山木戸遺跡	1994004	木製品	PEG	67	平成24年度
合計				908	
馬場屋敷遺跡	1983005	鉄製品	クリーニング ・樹脂含浸	26	平成23年度
合計				26	
若宮様遺跡	1983004	青銅製品	クリーニング ・樹脂含浸	23	平成23年度
馬場屋敷遺跡	1983005	青銅製品	クリーニング ・樹脂含浸	172	平成23年度
合計				195	
曾根下遺跡	1965001	鉄製品	クリーニング ・樹脂含浸	1	平成24年度
的場遺跡	1970001	鉄製品	クリーニング ・樹脂含浸	14	平成24年度
緒立B遺跡	1979002	鉄製品	クリーニング ・樹脂含浸	1	平成24年度
三王山遺跡	1979004	鉄製品	クリーニング ・樹脂含浸	7	平成24年度
緒立A遺跡	1981002	鉄製品	クリーニング ・樹脂含浸	6	平成24年度
中の山遺跡	1981003	鉄製品	クリーニング ・樹脂含浸	6	平成24年度
沙山遺跡	1982001	鉄製品	クリーニング ・樹脂含浸	32	平成24年度
沙山遺跡	1982003	鉄製品	クリーニング ・樹脂含浸	218	平成24年度
興野遺跡	1983003	鉄製品	クリーニング ・樹脂含浸	1	平成24年度
若宮様遺跡	1983004	鉄製品	クリーニング ・樹脂含浸	25	平成24年度
馬場屋敷遺跡	1983005	鉄製品	クリーニング ・樹脂含浸	1	平成24年度
小丸山遺跡	1986001	鉄製品	クリーニング ・樹脂含浸	8	平成24年度
合計				320	
緒立B遺跡	1958001	青銅製品	クリーニング ・樹脂含浸	19	平成24年度
的場遺跡	1970001	青銅製品	クリーニング ・樹脂含浸	1	平成24年度
沙山遺跡	1982003	銅・青銅製品	クリーニング ・樹脂含浸	37	平成24年度
馬場屋敷遺跡の塚	1983002	青銅製品	クリーニング ・樹脂含浸	2	平成24年度
山谷古墳	1987104	青銅製品	クリーニング ・樹脂含浸	2	平成24年度
新五兵衛山遺跡	1988001	青銅製品	クリーニング ・樹脂含浸	1	平成24年度
大沢谷内遺跡	1989001	青銅製品	クリーニング ・樹脂含浸	1	平成24年度
緒立C遺跡	1989010	青銅製品	クリーニング ・樹脂含浸	1	平成24年度
山木戸遺跡	1991004	青銅製品	クリーニング ・樹脂含浸	9	平成24年度
大入遺跡	1991005	青銅製品	クリーニング ・樹脂含浸	1	平成24年度
上浦A遺跡	1991009	銅	クリーニング ・樹脂含浸	1	平成24年度
舟戸遺跡	1993004	青銅製品	クリーニング ・樹脂含浸	4	平成24年度
新五兵衛山遺跡	1994007	青銅製品	クリーニング ・樹脂含浸	14	平成24年度
溝口政勝墓後	1994008	青銅製品	クリーニング ・樹脂含浸	2	平成24年度
和納館跡	1995004	青銅製品	クリーニング ・樹脂含浸	19	平成24年度
笹山前遺跡	1996002	青銅製品	クリーニング ・樹脂含浸	3	平成24年度
御井戸遺跡	1997002	青銅製品	クリーニング ・樹脂含浸	6	平成24年度
大淵遺跡	1997004	青銅製品	クリーニング ・樹脂含浸	10	平成24年度
川根遺跡	1998003	青銅製品	クリーニング ・樹脂含浸	1	平成24年度
前田遺跡	1999002	青銅製品	クリーニング ・樹脂含浸	4	平成24年度
甲山遺跡	2001001	青銅製品	クリーニング ・樹脂含浸	2	平成24年度
結七島遺跡	2003001	青銅製品	クリーニング ・樹脂含浸	8	平成24年度
沖ノ羽遺跡	2004001	青銅製品	クリーニング ・樹脂含浸	1	平成24年度
日本遺跡	2005001	青銅製品	クリーニング ・樹脂含浸	1	平成24年度
大沢谷内遺跡	2005004	青銅製品	クリーニング ・樹脂含浸	4	平成24年度
大沢谷内遺跡	2006002	青銅製品	クリーニング ・樹脂含浸	1	平成24年度
三王山遺跡	2007010	青銅製品	クリーニング ・樹脂含浸	2	平成24年度
手代山北遺跡	2008003	青銅製品	クリーニング ・樹脂含浸	1	平成24年度
大沢谷内遺跡	2008005	青銅製品	クリーニング ・樹脂含浸	8	平成24年度
林付遺跡	2010001	青銅製品	クリーニング ・樹脂含浸	5	平成24年度
大沢谷内遺跡	2010004	青銅製品	クリーニング ・樹脂含浸	6	平成24年度
合計				177	



金属製品保存処理室



金属製品クリーニング作業状況



銅鏡 保存処理前 (大淵遺跡)



銅鏡 保存処理後 (大淵遺跡)

行った。また、12月に公益財団法人大阪市博物館協会大阪文化財研究所にトレハロースを使用した保存処理方法について視察に行き、新潟市での導入の可能性について検討を行った。

(2) 金属製品・その他の保存処理について

処理の方針 金属製品では主に鉄製品と青銅製品の保存処理を行った。平成23年度には2遺跡221点、平成24年度には43遺跡497点の保存処理を行った(表21)。

新潟市では、福岡市埋蔵文化財センターを参考に、木製品の保存処理の含浸期間中に金属製品の保存処理を行うというサイクルで業務を行っている。

処理工程 鉄製品と青銅製品では、処理の工程が多少異なるが、顕微鏡による表面観察、処理前の写真撮影、X線写真撮影、処理前の遺物の計測といった共通の作業が行われ保存処理カードに記録される。保存処理カードは(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団と同じものを使用している。

①クリーニング 資料に付着した土やさびの除去を行う。アルコール洗浄を行ったのち、鉄製品はグラインダーやエアブラシを使用。銅・青銅製品については顕微鏡下でメスを用いてさびや汚れを除去する。

②脱塩処理 鉄製品において腐食を促進する塩化物・硫化物イオンを取り除く必要がある。高温・高圧のオートクレーブを使用して作業を行っている。

③安定化 青銅製品においてはBTA(ベンゾトリアゾール)によって塩類の不活性化を図っている。

④樹脂含浸 資料の強化や腐食促進因子からの隔離を目的として、合成樹脂による保護を行っている。鉄製品にはパラロイドNAD-10を、銅・青銅製品にはパラロイドB72を使用している。内部まで樹脂を浸透させるため70cmHg程度の減圧含浸を行っている。

⑤接着・復元 接着については、シアノアクリレート系接着剤またはエポキシ系接着剤を使用している。また補強や欠損の補てんにはエポキシ系樹脂を使用する。

⑥記録・保管 処理中に変化した箇所はないか点検し、処理後の記録をとり、写真撮影なども併せて行う。保存処理後もできる限り安定した環境に保管するためにバリアフィルムと脱酸素剤を資料と一緒に封入し(三菱ガス化学RPシステム)、特別収蔵庫に収蔵している。

処理の概要 平成23年度は比較的状态のよい馬場屋敷遺跡(1983005)の鉄製品・青銅製品の保存処理を行った。金属製品については、保存処理が初めてだったために、さび落としの加減がつかめず、地金まで削ってしまうこともあった。

平成24年度は、調査年次が古いものから保存処理を行っ

表22 平成23年度・24年度外部委託保存処理一覧

遺跡名	調査番号	点数	備考	委託先	金額(円)	合計(円)	年度
大沢谷内遺跡	2008005	12	柄付刀子他	元興寺文化財研究所	2,928,240	11,083,674	平成23年度
細池寺道上遺跡	2010003	3	ナンバ・エブリ	元興寺文化財研究所	921,984		
大沢谷内遺跡	2005004	5	他2遺跡の曲物含む	元興寺文化財研究所	3,215,184		
近世新潟町跡	2006015	1	大形木製品	吉田生物研究所	971,250		
手代山北遺跡	2008003	12	他8遺跡漆器	元興寺文化財研究所	2,466,072		
居村A遺跡	1989009 1990003	3	鉄塊サンプル	元興寺文化財研究所	70,560		
大沢谷内遺跡	2010004	2	日鑽白	元興寺文化財研究所	229,320		
緒立C遺跡	1989010	4	加工板他	元興寺文化財研究所	281,064		
沖ノ羽遺跡	1992003	2	県調査木柱	元興寺文化財研究所	5,714,184		
大沢谷内遺跡	2008005	20	田下駄他	元興寺文化財研究所	2,221,464		
川根遺跡	1999006	1	烏帽子	元興寺文化財研究所	499,800		
大沢谷内遺跡	2008005	9	折敷他	吉田生物研究所	492,450		



田下駄 保存処理前(細池寺道上遺跡)



曲物 保存処理後-外部委託-(大沢谷内遺跡)

た。鉄製品では沙山遺跡(1982003)の釣針が多かった。

釣針は細いうえに劣化が進み、さび落としが難しかった。青銅製品はほとんどが古銭である。発掘調査による青銅製品の保存処理はほぼ終わったが、埋納された銭貨がまだ6,000枚以上残っており、平成25年度以降も引き続き作業を行っている。

(3) 保存処理外部委託について

前記したように、PEG処理法に向かない木製品など当センターで保存処理ができないものについて、外部委託を行っている。(今井さやか)

9 決算額

平成23年度 文化財センター決算額

■歳入

(一般会計)

区 分	決算額 (円)
○使用料及び手数料	280,000
行政財産目的外使用料	280,000
○国庫支出金	84,175,000
市内遺跡範囲等確認調査事業費	15,645,000
埋蔵文化財保存処理	3,705,000
満日地区圃場整備発掘調査費	1,125,000
両新地区圃場整備発掘調査費	825,000
史跡等総合整備活用推進事業費	44,395,000
市内遺跡埋蔵文化財保存活用整備事業費	18,480,000
○財産収入	318,000
文化財センター等土地貸付料	318,000
○諸収入	45,910,000
満日地区圃場整備発掘調査	20,250,000
両新地区圃場整備発掘調査	14,850,000
結七島遺跡発掘調査	10,810,000
小規模緊急発掘調査	0
○雑入	6,367,223
○市債	53,900,000
(合併) 史跡古津八幡山遺跡整備事業債	53,900,000
合 計	190,950,223

■歳出

(一般会計)

区 分	決算額 (円)
○文化財保護調査事業	605,966
埋蔵文化財保護費	605,966
○市内遺跡範囲等確認調査事業	31,289,241
○出土品整理活用事業	1,487,524
○埋蔵文化財本格発掘調査事業	49,810,000
満日地区圃場整備発掘調査	22,500,000
両新地区圃場整備発掘調査	16,500,000
結七島遺跡発掘調査	10,810,000
小規模緊急発掘調査	0
○史跡古津八幡山遺跡整備活用事業	116,987,167
○埋蔵文化財センター(旧太郎代小)の管理運営	4,478,971
○文化財センター管理運営	131,477,508
○文化財センター駐車場整備費	28,879,198
○歴史文化施設管理諸費	694,605
大型民具収蔵庫(旧木場小)管理費	694,605
○加入団体等負担金	800,000
信濃川火焰街道連絡協議会負担金	800,000
合 計	366,510,180

平成24年度 文化財センター決算額

■歳入

(一般会計)

区 分	決算額 (円)
○使用料及び手数料	877,050
文化財センター設備使用料	3,050
行政財産目的外使用料	874,000
○国庫支出金	54,212,000
市内遺跡範囲等確認調査事業費	14,750,000
埋蔵文化財保存処理	4,227,000
満日地区圃場整備発掘調査費	2,000,000
両新地区圃場整備発掘調査費	4,000,000
道上地区圃場整備発掘調査費	365,000
史跡古津八幡山遺跡整備・保存活用事業費	18,198,000
文化財センター保存・活用事業費	10,672,000
○諸収入	114,570,000
満日地区圃場整備発掘調査	36,000,000
両新地区圃場整備発掘調査	72,000,000
道上地区圃場整備発掘調査費	6,570,000
小規模緊急発掘調査	0
○雑入	6,735,336
○市債	5,900,000
(合併) 史跡古津八幡山遺跡整備事業債	5,900,000
合 計	182,294,386

■歳出

(一般会計)

区 分	決算額 (円)
○文化財保護調査事業	774,289
埋蔵文化財保護費	774,289
○市内遺跡範囲等確認調査事業	29,500,541
○出土品整理活用事業	5,110,985
○埋蔵文化財本格発掘調査事業	127,300,000
満日地区圃場整備発掘調査	40,000,000
両新地区圃場整備発掘調査	80,000,000
道上地区圃場整備発掘調査費	7,300,000
小規模緊急発掘調査	0
○史跡古津八幡山遺跡整備活用事業	36,444,091
○古津八幡山遺跡及びガイドンス施設管理運営費	12,260,063
○文化財センター管理運営	112,908,059
○歴史文化施設管理諸費	590,540
大型民具収蔵庫(旧木場小)管理費	590,540
○加入団体等負担金	800,000
信濃川火焰街道連絡協議会負担金	800,000
合 計	325,688,568

(丸山徳幸・上田俊哉)